

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.16

2016

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.16

2016



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙
ミナミオカガニ

年報 No.16 目次

1	総合研究博物館の組織－ 2016 年度－	福元しげ子	(1)
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2016 年度の企画事業		
	1. 研究交流会		
	(1) 第 21 回研究交流会 海外遺伝資源に係わる生物多様性条約 / 名古屋議定書セミナー	本村浩之	(3)
	(2) 第 22 回研究交流会 先史時代の奄美に鉄器を伝えた種子島人のはなし	橋本達也	(4)
	2. 市民講座		
	(1) 第 30 回市民講座 カニたちは、なぜ陸に上がったのか？	本村	(4)
	(2) 第 31 回市民講座 地震の化石、断層岩の世界	鹿野和彦	(4)
	(3) 第 32 回市民講座 琉球列島のヘビ類の起源	鹿野	(5)
	3. 公開講座		
	(1) 第 16 回自然体験ツアー 南限ブナ林の植物観察	福元	(5)
	(2) 第 16 回公開講座 超巨大火山、スーパーボルケーノを作ろう！	鹿野	(6)
	4. 第 16 回 特別展 水から陸へーカニたちの多彩な生活	本村	(7)
	5. その他の活動		
	(1) 特別公開 「琉球列島最古のハブ属の化石」と「アマミノクロウサギの歯の化石」	鹿野	(8)
	(2) 特別公開 河東碧梧桐の直筆俳句―旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録―	橋本	(8)
3	常設展示室	上村 文	(9)
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－ 2016 年度－ (2015 年度からの変更点)		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 共通教育「博物館へのいざない」	橋本	(11)
	2. 博物館実習	各教員	(12)
	3. 教員免許更新講習	本村・橋本	(14)
5	出版・広報	橋本	(14)
6	ボランティア活動	本村	(15)
7	標本管理活動		
	1. 植物標本室	鈴木	(15)
	2. 魚類標本の利用状況	本村	(15)
	3. その他の標本の利用	福元・鹿野	(17)
8	2016 年度 専任教員の活動業績	各教員	(18)
9	2016 年度 ポスター		(29)
10	奄美の高倉 解説掲示板データ		(32)
11	2016 年度魚類ポスター		(33)

1 総合研究博物館の組織－2016年度－

館長	本村 浩之	総合研究博物館部
研究部		
資料研究系	鹿野 和彦 教授	地質学・火山堆積学
	橋本 達也 准教授	考古学
	福元しげ子 助手	生物学
分析研究系	本村 浩之 教授	魚類分類学
事務補佐員	西元 暢子	
事務補佐員 (常設展示室)	上村 文	
技術補佐員	大西聡子	
研究支援者	星野三香	
事務局	研究国際部研究協力課研究支援係	

運営委員 (総合研究博物館専任教員を除く)

法文学部	木戸 秀之 教授	教育学部	瀬戸 房子 教授
理学部	鈴木 英治 教授	医学部	大重 匡 教授
歯学部	上川 善昭 教授	工学部	武井 孝行 准教授
農学部	朴 炳宰 准教授	水産学部	鈴木 廣志 教授
共同獣医学部	松元 光春 教授		
医歯学総合研究科	後藤 哲哉 教授		

兼務教員 (敬称略)

地球科学分野

- 松井 智彰：教育学部 (灰斜長石巨晶の鉱物学的研究)
河野 元治：理学部 (鹿児島県に産する鉱物とその結晶科学的性質)
北村 有迅：理学部 (四万十帯および現生付加体の形成過程とプレート境界の動的過程の地質学的研究)
中尾 茂：理学部 (始良カルデラ周辺の地殻変動に関する研究)
仲谷 英夫：理学部 (脊椎動物の進化と古生態)

生物学分野

- 川西 基博：教育学部 (河畔域における植物群落の動態と河川攪乱との関係に関する研究)
栗和田 隆：教育学部 (動物の行動・生態の進化における進化生態学的研究)
河合 溪：国際島嶼研 (南西諸島の貝類の多様性に関する研究)
大塚 靖：国際島嶼研 (衛生昆虫の日本および東南アジアでの種分化と病原菌との関係の解明)
山本 宗立：国際島嶼研 (アジア・オセアニアにおける唐辛子の民族植物学的研究)
相場慎一郎：理学部 (多雨林の植物多様性)
宮本 旬子：理学部 (野生植物の遺伝的多様性)
上野 大輔：理学部 (海域や陸水域に生息する共生および寄生性甲殻類の分類と生態)
佐藤 正典：理学部 (環形多毛類の分類学的研究)
富山 清升：理学部 (軟体動物の生態学、生物地理学、保全生物学、系統分類学の研究、島嶼の生物相の研究)
一谷 勝之：農学部 (作物の遺伝的多様性)
鶴川 信：農学部 (マレーシアの熱帯雨林における各樹種の生育環境の解明、徳之島の天然林における各樹種の個体群動態の解明)

- 坂巻 祥孝：農学部（鱗翅目昆虫キバガ上科の系統分類学的研究、九州および南西諸島の害虫および天敵節足動物の個体群管理）
- 津田 勝男：農学部（鹿児島県本土および南西諸島における昆虫類微生物の分布と生態）
- 中西 良孝：農学部（在来家畜および再野生化家畜の保護と活用に関する研究）
- 藤田 志歩：共同獣医（野生霊長類の行動と生態、奄美群島に生息する哺乳類の分布）
- 鈴木 廣志：水産学部（学術標本の調査・収集・整理・分類・保存・管理に関する研究、十脚甲殻類の分類と生態・生活史に関する研究）
- 寺田 竜太：水産学部（熱帯、亜熱帯における海藻類の種多様性と群落維持機構）
- 山本 智子：水産学部（干潟底生生物の群集生態学的研究）
- 考古学・歴史学・民俗学分野**
- 高津 孝：法文学部（薩摩塔及び南西諸島現存碇石の研究）
- 石田 智子：法文学部（弥生時代における土器をはじめとする物質文化動態の社会変化に結びつくプロセスの研究）
- 兼城 糸絵：法文学部（中国南部における人の移動と地域社会の変容に関する研究、災害と民俗文化に関する研究）
- 桑原 季雄：法文学部（グローバリゼーションの島嶼社会への影響および薩南諸島の観光化に関する研究）
- 小林 善仁：法文学部（鹿児島の地図資料に関する基礎的研究）
- 中路 武志：法文学部（地域映像アーカイブスの構築と活用に関する研究）
- 渡辺 芳郎：法文学部（薩摩焼の考古学的研究）
- 日隈 正守：教育学部（日本中世諸国一宮制の研究）
- 教育学・理学・学術情報学分野**
- 有馬 一成：理学部（植物由来タンパク質分解酵素の構造機能相関、弾性線維エラスチンの機能解析）
- 富安 卓滋：理学部（環境中における水銀の挙動）
- 平 瑞樹：農学部（農地保全と農村周辺の景観・生態系保全に関する調査・研究）
- 大西 佳子：医歯学総合研究科（アートサイエンス・コミュニケーション）
- 升屋 正人：学術情報基盤センター（情報ネットワーク・生命情報学）
- 中武 貞文：産学連携（地域におけるイノベーション創出の「場のデザイン」）

学外協力研究者

- 秋元 和實：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター准教授（微古生物学、海洋環境学、海洋地質学）
- 石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹に関する研究）
- 稲田 博：鹿児島県技術士の会（河川・砂防及び海岸工学）
- 浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
- 大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（地質学、古生物学・生物学的研究）
- 大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授（層序学、古脊椎動物学）
- 川端(北村) 訓代：鹿児島大学大学院、日本学術振興会特別研究員（地震の発生機構の解明）
- 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
- 小枝 圭太：日本学術振興会特別研究員
- 坂元 隼雄：(財)鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
- 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授（魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究）
- 鮫島 正道：鹿児島大学農学部客員教授（動物形態学、野生動物保全生態学）
- 土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
- 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（海産無脊椎動物の生殖と発生）

西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授（動物考古学、動物解剖学）
福田 晴夫：鹿児島県環境審議会副会長（生物学、昆虫生態学）
藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授・株式会社鹿児島 TLO 取締役（木材の循環型社会・バイオマス等の活用による再生可能エネルギーの構築）
丸野 勝敏：（鹿児島県産植物相の調査、絶滅危惧種の調査・データ収集）
山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響）
山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（東南アジア産アリ類の分類・生物地理）

専門部会

1. プロジェクト推進部会 委員長：山本 智子（水産）
松井 智彰（教育）；坂巻 祥孝（農）
専任教員：鹿野 和彦
2. 企画交流部会 委員長：仲谷 英夫（理学）
桑原 季雄（法文）；河合 溪（国島）
専任教員：福元しげ子
3. 出版広報部会 委員長：中西 良孝（農学）
中尾 茂（理学）；寺田 竜太（水産）
専任教員：橋本 達也

2 2016 年度の企画事業

1. 研究交流会

(1) 第 21 回研究交流会 海外遺伝資源に係わる生物多様性条約／名古屋議定書セミナー

本研究交流会は、海外から取得した遺伝資源（生物資源）を利用した研究を行っている研究者の方、海外の研究者と共同研究されている方、海外から生物系留学生を受け入れている方、遺伝資源を保存されている部署の方、研究企画立案・実行責任者、それらの研究を支援されている知財・研究推進・産学連携・URA・海外連携等に所属する担当者を対象とし、生物資源の研究利用に伴う名古屋議定書対応を学ぶ場として、4月14日（木）に鹿児島大学郡元キャンパスの理学部1号館2階大会議室で開催されました。国立遺伝学研究所 ABS 学術対策チームの鈴木睦昭氏に「海外遺伝資源に関する名古屋議定書の最新情報の提供」と題して、生物多様性条約と名古屋議定書についての基本的原則と各学術機関での適切な体制づくりについて講演して頂きました。

また、同チームの榎本美千子氏に「ABS 学術対策チームの概要と活動紹介」を話して頂き、最後に、本村が「総合研究博物館における ABS 対策の現状と問題点」を紹介しました。活発な質疑応答が行われ、参加者（30名）は生物多様性



第 21 回 研究交流会



鈴木睦昭氏



榎本美千子氏



本村浩之

条約と名古屋議定書に係わり、研究者と大学がどのように対応すれば良いか、理解を深めることができました。

(2) 第 22 回研究交流会 先史時代の奄美に鉄器を伝えた種子島人のはなし

鹿児島大学では近年、奄美地域の研究に力を入れていることもあり、長年、考古学で奄美の歴史研究を先導してこられた熊本大学 教授の木下尚子氏を迎えて、最新の研究成果をうかがう機会とした。奄美大島における鉄器の出現には種子島広田遺跡の人々が関与していたであろうことを遺跡出土の遺物や遺構の分析から見解を述べられた。2016年10月15日(土)13:30～15:00に行い、21名の参加があった。



第 22 回研究交流会



木下 尚子氏

2. 市民講座

(1) 第 30 回市民講座 カニたちは、なぜ陸にあがったのか！

特別展の関連企画として、2016年10月29日(土)の13:30～15:00に鈴木廣志 教授に講演いただいた。

本講座はかごしま水族館との共催で、水族館のレクチャールームで開催した。本来、水中で鰓呼吸するカニが陸上に生活の場を移したのは何故か？またそれを可能にした理由は何か？カニの多彩な生活様式を示しながら、その理由について紹介していただいた。小学生から大人まで満員の57人が聴講し、盛況であった。

(2) 第 31 回市民講座 地震の化石、断層岩の世界

2017年2月4日に、鹿児島大学理学部2号館1階214号室において、川端訓代博士(鹿児島大学大学院理工学研究科・日本学術振興会特別研究員)を講師に迎えて、地震断層の化石である断層岩から読み解く地震の発生プロセスを紹介していただいた。参加者は20人程度だったが、市民・学生のほか教員も加わって熱心に聴講した。

断層岩のできた深さによって軟らかいものもあれば堅いものもあると聞いて、講演後は、断層岩の標本にさわって感触を確かめる参加者が多かった。

また、地震が少ない鹿児島だけに、2016年4月の熊本地震や桜島大正噴火時に鹿児島で発生した地震などが気になるらしく、地震予知や想定被害など、講師の専門外の質問までとびだしたが、当日参加した地震学の専門家もまじえて話がはずんだ。



第31回市民講座
断層岩の標本を前に講師を囲んで談笑する市民講座参加者

(3) 第32回市民講座 「琉球列島のヘビ類の起源」

2016年8月27日から始まる特別公開の初日に、奄美大島の奄美市立奄美博物館において、大塚裕之・鹿児島大学名誉教授の指導の下、琉球列島のヘビ類化石を研究してきた池田忠広博士（兵庫県立人と自然の博物館）を講師に迎えて、ハブなど琉球列島に生息するヘビ類の起源を求めて発掘してきた化石の数々を取り上げて、化石から読み取れる「琉球列島のヘビの起源」について解説していただいた。当日は、徳之島で見つかったハブの脊椎骨などの化石も展示したせいか、専門的な話にもかかわらず80人もの市民が集まり、講演後は沢山の質問が寄せられ、関心の高さがうかがえた。



第32回市民講座

3. 公開講座

(1) 第16回自然体験ツアー 南限ブナ林の植物観察

2016年7月31日に紫尾山（出水市と薩摩郡さつま町にまたがる）にて、山頂付近にどのような植物が分布しているかを観察した。案内役は鹿児島大学理学部の鈴木英治教授と丸野勝敏氏（協力研究者）、参加は20名（内3名は当該管理署職員）、博物館からは福元が参加した。紫尾山一帯は国有林となっており、ツアー実施にあたっては北薩森林管理署に国有林野の入林の申請手続きを行った。参加決定者向けに事前に案内役の鈴木氏制作の、スマートフォンやタブレットに入れて利用できる「紫尾山山頂付近の植物図鑑」をメール配信した。標高1067mの紫尾山山頂付近標高千m前後で見られる代表的な樹木や草52種について説明されている。

紫尾山山頂の駐車場に集合し、始めに鈴木・丸野両氏により紫尾山の植生と山頂付近で観察できる植物を大まかに解説していただいた。山ビル対策として肌を出さないようにと、首にタオルを巻き、長靴や登山靴にズボンのすそをしっかりと入れ、虫避け、ヒル避けをスプレーしスタートした。スタート地点・駐車場すぐそばの山頂に向かい、集合写真を撮った。

午前中は2グループに分けて、山頂から南の稜線沿いを観察した。山頂付近はシカの食害が進んでいて、シダ類やキガンピなどのシカの忌避植物が多かった。シカ被害防止ネット設置箇所において北薩森林管理署員の方から、被害防止ネットを設置して植生への影響について調査が実施されていることについて話をうかがうことができた。設置枠の内とシカの食害を受けた枠の外の植物の様子を比較し、驚きの声があがった。午後は上宮神社に向かって山道に分け入り、ウラジロガシの巨木などを観察した。好天続きが功を奏したのか、心配した山ビルの被害に遭わずにすんだ。



第16回自然体験ツアー

参加者全員に配布したアンケートによると、他のところでも次回開催してほしいとの要望があった。多数の参加者より満足との回答が得られた。

尚、スマホ用「紫尾山山頂付近の植物図鑑」は鹿児島大学総合研究博物館のホームページの「オンライン・フィールドガイド鹿児島」からダウンロードできる。

http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/kaum/KFG_main.htm

(2) 第16回公開講座 超巨大火山，スーパーボルケーノを作ろう！

「世界一おいしい火山の本～チョコやココアで噴火実験～」(小峰書店刊)の著者で知られる林 信太郎・秋田大学教育文化学部教授を講師に迎え、2016年7月23日に子供向けにこの講座を開催した。



第16回公開講座 講師の手ほどきを受けて、ココアカルデラ実験に取り組む子供達

夏休み最初の土曜日とあって行事が重なったためか参加者は予想外に少なくて50人程度だったが、親に付き添われて参加した子供達は入浴剤火砕流実験、ココアカルデラ実験、溶岩実験、スポンジ実験など、身近な材料を使った実験を通して、スーパーボルケーノがどのようにしてできるのかを楽しみながら学んだ。

4. 第16回特別展 水から陸へカニたちの多彩な生活

2016年10月20日から11月16日まで、鹿児島大学郡元キャンパス中央図書館のギャラリーアトリウムで開催した。鹿児島大学水産学部の鈴木廣志 教授が長年研究を進めてこられたカニの生態に迫る展示である。

カニは干潟や土手に巣穴を掘ったり、瓦礫やサンゴや岩場の隙間に潜り込んで生活している。ときには他の生物の体内などにいるなど、その生活様式はさまざまである。本特別展では、およそ80点の標本・資料と16枚の解説パネルを展示し、カニたちの多彩な生活様式を紹介した。

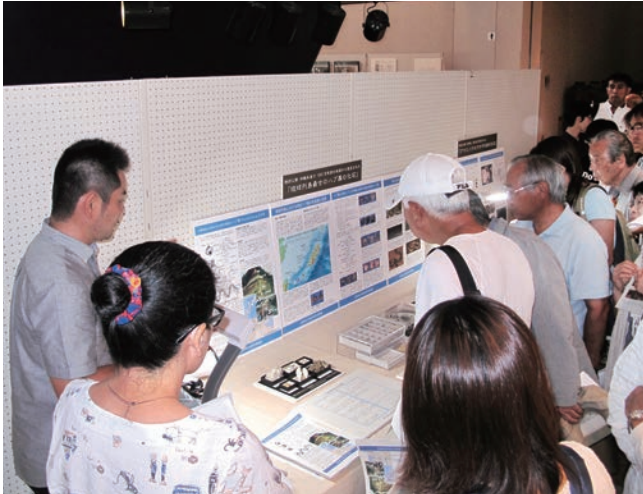


特別展 水から陸へカニたちの多彩な生活

5. その他の活動

(1) 特別公開 「琉球列島最古のハブ属の化石」と「アマミノクロウサギの歯の化石」

前年度に当館の常設展示室で特別に公開した「琉球列島最古のハブ属の化石」と「アマミノクロウサギの歯の化石」を奄美大島に運んで、奄美大島の奄美市立奄美博物館において平成28年8月27日から9月25日まで展示した。いずれも南西諸島の生物古地理を知る上で重要な標本とあって、展示期間中におとずれた入場者は600名を超えた。訪れた人の中には、アマミノクロウサギの歯の化石が徳之島から産出した多様な脊椎動物化石のひとつであることを知って徳之島での展示を望む声もあった。



市民講座での講演後行われた講演者による展示解説



特別公開を報じる奄美新聞

(2) 特別公開 河東碧梧桐の直筆俳句—旧制鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録—

2011年に元農学部教員で長く指宿植物試験場に勤めた中山定徳氏のご遺族から鹿児島高等農林学校時代の植物試験場の芳名録を寄贈いただいたが、寄贈当初は虫喰いがおびただしく、まだ生きた虫がついた状態であった。その後、殺虫・防虫を経て、公開出来る状態にまで至っている。

前年の与謝野鉄幹・晶子の直筆短歌部分につづき、第2回目の特別公開として河東碧梧桐の直筆俳句部分の展示を2016年11月11日～12月10日まで実施した。期間中には大学祭があり、その際に常設展示室の集客をはかることも目的としている。

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2016年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	194	508	196	403	226	70	51	401	109	44	86	122	2410
団体	83	137	6	23	85	0	0	0	43	0	22	0	399
一般	111	371	190	380	141	70	51	401	66	44	64	122	2011
開館日数	21	17	22	22	20	21	21	21	19	19	18	23	244

常設展示室 曜日別入館者数 2016年度

	火		水		木		金		土		日		月		合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4月	17	23	10	24	0	16	56	31	0	17	0	0	0	0	83	111	194
5月	100	67	0	69	0	128	0	69	37	38	0	0	0	0	137	371	508
6月	0	21	0	38	6	107	0	14	0	10	0	0	0	0	6	190	196
7月	23	55	0	134	0	133	0	42	0	16	0	0	0	0	23	380	403
8月	0	36	32	18	0	26	32	6	0	52	0	0	21	3	85	141	226
9月	0	11	0	13	0	13	0	24	0	7	0	0	0	2	0	70	70
10月	0	8	0	10	0	12	0	6	0	15	0	0	0	0	0	51	51
11月	0	21	0	21	0	27	0	52	0	131	0	149	0	0	0	401	401
12月	0	6	27	16	16	8	0	18	0	16	0	0	0	2	43	66	109
1月	0	5	0	4	0	9	0	12	0	14	0	0	0	0	0	44	44
2月	0	17	0	14	0	16	22	10	0	7	0	0	0	0	22	64	86
3月	0	41	0	38	0	9	0	31	0	3	0	0	0	0	0	122	122
合計	140	311	69	399	22	504	110	315	37	326	0	149	21	7	399	2011	2410
	451		468		526		425		363		149		28		2410		

今年度の総入館者数は2410名で、昨年度に比べ148名増加している。一般160名、団体12名の増加で、授業・講義での利用のほか、大学祭期間中の利用が増加した。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月の新入生オリエンテーションをはじめ、博物館実習、理学部・工学部・教育学部・農学部および共通教育の授業のほか、教員免許状更新講習、男女共同参画推進センター 学童保育などの利用があった。学外からは、学術交流協定校の海外の大学や、国内の研究グループ、地域で自然体験活動を行っているNPO法人など、小学生から社会人まで幅広い年代層の団体利用があった。

・大学関係

- ・理学部地球環境科学科 新入生オリエンテーション
- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・教育学部 博物館実習事前見学
- ・農学部「地学概論」
- ・共通教育科目「鹿児島探訪」
- ・博物館実習
- ・教員免許状更新講習
- ・男女共同参画推進センター 学童保育
- ・共通教育科目「博物館へのいざない」

・学外

- ・NPO 法人かごしま自然学校 ・NPO 法人どんぐり自然学校
- ・さつま町（農学部地域連携ネットワークプロジェクト報告会参加者）
- ・国立歴史民俗博物館研究グループ
- ・海外学術交流協定校 雲南農業大学（中国） ポリテクニク大学（フィリピン）

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度（℃）	18.9	22.3	23.0	24.7	26.2	25.8	25.0	20.5	17.8	16.8	14.2	14.9	20.8
1階ケース湿度（%）	72.2	69.3	62.9	59.4	51.4	54.3	57.1	67.2	62.8	54.9	55.5	57.8	60.4
2階ケース温度（℃）	19.8	24.2	24.3	25.2	26.3	25.3	25.1	20.9	16.9	17.0	15.8	17.9	21.5
2階ケース湿度（%）	67.9	62.8	56.1	61.6	51.8	56.8	63.1	68.9	68.2	57.7	52.0	62.0	60.7

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 51名 女 29名 合計 80名

2) 年齢

小学生以下 7名 中学生 1名 高校生 1名 大学生 21名
上記以外の10代 0名 20歳代 8名 30歳代 9名 40歳代 12名
50歳代 16名 60歳代 5名 70歳以上 0名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 32名 鹿児島県内 9名 鹿児島県外 24名
大学関係者(学生・教職員) 15名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 32名 ホームページ 7名 授業・講座等 9名
ポスター 3名 人にすすめられて 15名 その他 13名 無回答 1名

5) 感想

大変よい 53名 よい 25名 どちらともいえない 2名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 0名

6) 感想・意見・要望等

アンケート 80件中 76件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると、全般的な感想としては「コンパクトに多様な物が展示してあり、見やすかった」「写真OKはうれしい」、展示内容については「今では全く使われない機械や道具（タイプライターや計算機など）にさわれたり、昔の大学の様子を写真で見ることができ、大学の歴史を感じることができた」「大学自慢じゃないのが好感もてる」「成川式土器の完形品を一度にこれだけ見られる博物館はなかなかないので、見ごたえがあった」「真空管は大きくて驚いた」「日本全国の金鋸床が地図と実物で示され、視覚的に理解しやすかった」「海底地形の模型の海の深さに驚いた」、特別公開については「ハブの化石や骨格標本が特別に見られてうれしかった」、その他に「計算機の使い方など、わからないことをすぐに聞けてよかった」といった声が寄せられた。

意見・要望としては、「常設展示があることや特別展などのイベントをもっと周知した方がよい」「研究者の話を直接聞ける機会やイベントをもっと増やしてほしい」「博物館の出版物（魚類の図鑑や過去の図録）を販売してほしい」「キャンパスが遺跡の上にあることを、学内外にもっとアピールした方がいい」「鹿児島の地質はシラスといわれているが、具体的にどんなものなのかわかりやすく展示してほしい」「魚類標本や植物標本のすばらしいコレクションがあるそうなので、ぜひ見てみたかった

た」「鹿児島は南北に長く、自然史はとてもおもしろいと思う。奄美などは生物相の宝庫だし、もつと鹿児島の特徴を打ち出した展示が見たい」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2016年度－（2015年度からの変更点）

展示交換

- ・神領10号墳出土資料（筒型器台・取っ手付須恵器⇒土師器高坏台）西都原考古博物館特別展「化内の辺境」へ貸し出しのため
- ・桜ヶ丘キャンパス出土資料（岩元式土器1〔中央機械棟〕、細石刃3・石鏃1〔新病棟用地〕⇒前平式土器1・細石刃5・石鏃1〔MRI増築〕）鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため
- ・特別公開「河東碧梧桐の直筆俳句」旧制鹿児島高等農林学校指宿植物試験場の芳名録（11月11日～12月10日）
- ・諏訪コレクション「中世の銭貨」芳名録特別公開終了につき

展示終了

- ・特別公開「ハブ属の化石」ハブ属脊椎骨化石（1ケース14点）・宮古島天川洞産サキシマハブ類縁種の脊椎骨・現生ハブの骨格標本（沖縄島産）・今帰仁村赤木又からハブ属類縁種とともに産出した貝化石（6点）奄美博物館特別公開（8月27日～）のため
- ・稲盛アカデミー棟出土資料 有孔広口小壺（はそう）西都原考古博物館特別展へ貸し出しのため（8月29日）
- ・諏訪コレクション「南薩地域の縄文時代 石斧」芳名録特別公開のため

6. 常設展示室の課題

今年度は昨年度に引き続き、未公開収蔵資料の「特別公開」が2回実施され（4月～8月「ハブ属の化石」・11月～12月「旧制鹿児島高等農林学校指宿植物試験場の芳名録」）、昨年度から設置している「諏訪コレクション」も展示替えを行うなど、展示資料が常に更新されている印象があったとみえ、「初公開の貴重なものが見られた」など好評を得ている。団体利用の大半を占める新入生オリエンテーションや授業・実習などの学内利用については、特定の学部学科に偏る傾向があり、在学中に一度も来館したことのない学生も多い。利用を促すべく何らかの策を講じたい。

4 教育活動

1. 共通教育「博物館へのいざない」

総合研究博物館教員で担当する共通教育科目である。この講義では大学博物館の存在を紹介するとともに、その役割や意義について説明し、学習や研究における博物館の活用について理解を深めることを目的としている。また、学芸員資格や学芸員の仕事について知る博物館学入門の講義として位置づけている。授業は「鹿児島大学公開授業」としており、学生以外の受講者も手続きを行えば受講できるようになっている。2015年度は79名の受講生があった。

講義内容は下記のとおりである。

- 4/14 橋本 博物館とは？－いろいろな博物館－
- 4/21 橋本 文化財保護と博物館
- 4/28 橋本 埋蔵文化財と考古学
- 5/12 橋本 考古学と博物館
- 5/19 鹿野 地球探検の記録：地質学と博物館（1）

- 5/26 鹿野 地球探検の記録：地質学と博物館（2）
- 6/2 鹿野 地球探検の記録：地質学と博物館（3）
- 6/9 鹿野 世界遺産、ジオパークとフィールドミュージアム
- 6/16 鈴木 植物と博物学
- 6/23 鈴木 熱帯の植物多様性
- 6/30 鈴木 鹿児島島の植物多様性
- 7/7 本村 博物学の起源と動物の進化・分類学
- 7/14 本村 魚類分類学とフィールド調査
- 7/21 本村 鹿児島島の魚類多様性
- 7/28 本村 魚類生態学と博物館

2. 博物館実習

総合研究博物館では、博物館実習の学内実習の24時間を担当している。実習全受講生は法文学部5名、教育学部4名、理学部9名、農学部4名、水産学部7名であった。

4月16日、理学部鈴木英治教授および福元により、法文学部4名、理学部7名の博物館実習の補助を行った。始めに当館所蔵の植物標本についてパワーポイントにより概要（収集地域、標本点数、配架方法、温湿度管理）について説明を行った。標本室に移動、グループ分けを行い、植物標本の作製、標本のスキャン（画像データ）、標本データの入力などを実際に体験した。4月23日、農学部4名、水産学部7名に対しても16日と同様に実施した。（福元）

5月21日は、常設展示室における展示等の状況を見学した後、金銀鉱石標本などの展示の様態替えに備えての準備作業として、標本を清掃しつつ、それらの種類と標本番号、配置を記録した。5月28日は、鹿児島大学総合研究博物館における地学系標本の収蔵、展示等の状況を見学した後、鹿児島県を代表する「石」として日本地質学界が選定したシラスと金鉱石の特別展を想定して、そのポスター案を作成した。（鹿野）

6月11日、18日は橋本が担当し、法文学部5名、教育学部4名、理学部9名、農学部4名、水産学部7名に対して収蔵庫の管理と防災・減災についての実習を行った。近年、東日本大震災や熊本地震など、大きな災害によって、博物館等の施設が被災することも稀ではない。そのための備えが必要であるが、なかでも収蔵庫は棚落ちによって、標本資料の破損や混乱が大量に生じる可能性があること、棚から資料が落ちないようにすること、それには簡単な備えがあるだけでも大きく異なることを実例の写真をとおして学んだ。その後、総合研究博物館標本庫において棚の安全確認および標本が飛び出さないように、紐を掛ける作業を行った（橋本）。

7月3日（日）は本村が担当し、法文学部4名、理学部6名、水産学部1名の計11名が作業を行った。午前中は受講者を3グループに分け（3,4,4名）、標本タグの作成、固定未登録標本の同定・登録、および液浸標本のエタノールの追加の3つの作業を各グループ1時間ずつ行い、ローテーションで全員がすべての作業に従事した。午後は、全員で標本の作製作業を行った。



博物館実習（橋本）



博物館実習 (本村)

7月10日(日)は本村が担当し、水産学部5名、農学部4名、理学部1名の計10名が作業を行った。午前中は受講者を2グループに分け、順番に標本タグの作成と液浸標本瓶の整理を行った。午後は全員で標本の作製作業を行った。

7月22日(金)は本村が担当し、補講として、水産学部2名が作業を行った。

3. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習が開設された。免許状更新講習とは、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習である。

総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行い、2016年度は7月2日（土）に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」が開講された。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて10名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクションの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者10名全員が履修認定された。

7月24日（金）には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は19名、小学校・中学校（社会）・高等学校（地歴）を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには拓本実習を含んでいる。（橋本）

5 出版・広報

2016度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 例年ニューズレターは1冊を特別展関連資料としている。さらに総合研究博物館にかかわる情報を掲載した号を1冊刊行している。

ニューズレター No.39 は、特別展にかかわる解説で全14p。

鈴木廣志「水から陸へーカニたちの多彩な生活」

ニューズレター No.40 は、総合研究博物館スタッフおよび関連分野教員の研究紹介からなる6件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全18ページ。

鹿野和彦「始良カルデラの環境変遷ー淡水湖から内湾へー」

鈴木英治「鹿児島大学総合研究博物館維管束植物標本庫とデータベースの紹介」

本村浩之「フィリピン大学における魚類コレクションの構築とパナイ島の魚類多様性調査」

上野浩子「大きな奄美の海で小さな貝をさがす」

上村 文「漫画「七高さん」の時代」

橋本達也「諏訪考古資料コレクション2ー中世銭貨ー」

研究報告等 研究報告 No.9 として下記を刊行した。

Hiroyuki Motomura and Shigeru Harazaki “Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の2冊を刊行している。

Hiroyuki Motomura, Ulysses B. Alama, Nozomu Muto, Ricardo P. Babaran, and Satoshi Ishikawa
“Commercial and Bycatch Market Fishes Panay Island, Republic of the Philippines”

Eric Coppejans, Anchana Prathep, Khanjanapaj Lewmanomont, Ken-ichi Hayashizaki, Oliver De Clerck, Frederik Leliaert and Ryuta Terada “Seaweeds and Seagrasses of the Southern Andaman Sea coast of Thailand”

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報 No.15、2015年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第16回特別展にあわせて、展示案内用のB2版ポスター・A4版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。

また、本村浩之による魚類分類学の研究成果を一般に広く広報する目的として、各地域の魚類を一覧できるようにしたポスターを作成し配布している。本年度作成したポスターは下記の3種である。

「奄美大島市場の魚 100 種 ①・②」、「種子島の魚」、「フィリピンの魚」。

その他広報 総合研究博物館ホームページ上の「フィールドガイド鹿児島」に奄美の樹木図鑑や紫尾山山頂付近の植物図鑑などを加えて公開した。

総合研究博物館で管理する「奄美の高倉」の解説板が劣化したため新設を行った。



奄美の高倉 解説板

6 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る（詳しくは「総合研究博物館ニュースレター No. 16」と総合研究博物館出版「魚類標本の作製と管理マニュアル」を参照）。本年度は本学水産学部から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 50000 件の画像データベースを作成した。

また、2016年9月6日にボランティア学習会を開催し、国立科学博物館名誉研究員の松浦啓一氏に「アマミホシゾラフグの分類と生態」について講演をして頂いた。20名の学生やボランティアが聴講した。

7 標本管理活動

1. 植物標本室

2016年度も総合研究博物館専任の植物標本管理担当者が補充されていないので理学部 鈴木英治教授に管理を委任している。スキャナーによる植物標本の画像化、標本ラベル情報の入力作業といった資料整理は大西聡子が継続して行っている。博物館実習において植物標本庫で植物標本の作製とデータベース化を行っている。

神戸大学、鹿児島県立博物館、熊本大学薬学部、東京農業大学の研究者が当館での標本調査を実施した。神戸大学理学部、熊本大学薬学部から論文別刷の寄贈があった。

2. 魚類標本の利用状況

2016年度の総合研究博物館所蔵魚類標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2016年4月	魚類	標本画像	54	Queensland Museum, Australia	研究
2016年4月	魚類	液浸標本	5	Queensland Museum, Australia	研究
2016年4月	魚類	筋肉組織	2	Queensland Museum, Australia	研究
2016年4月	魚類	筋肉組織	3	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2016年5月	魚類	標本画像	55	株式会社童夢	図鑑
2016年5月	魚類	標本画像	10	学研プラス	図鑑

2016年5月	魚類	液浸標本	3	三重大学	研究
2016年5月	魚類	液浸標本	7	高知大学	研究
2016年6月	魚類	標本画像	8	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年6月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年6月	魚類	標本画像	14	小学館	図鑑
2016年6月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2016年6月	魚類	筋肉組織	7	高知大学	研究
2016年6月	魚類	液浸標本	17	東海大学	研究
2016年6月	魚類	液浸標本	31	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年6月	魚類	液浸標本	1	Chinese Academy of Sciences, China	研究
2016年6月	魚類	液浸標本	8	高知大学	研究
2016年7月	魚類	標本画像	395	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年7月	魚類	液浸標本	1	西海区水産研究所	研究
2016年7月	魚類	液浸標本	5	西海区水産研究所	研究
2016年7月	魚類	液浸標本	648	宮崎大学	研究
2016年8月	魚類	液浸標本	1	北海道大学	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	13	京都大学	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	7	国立科学博物館	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年9月	魚類	筋肉組織	102	東海大学	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	4	国立科学博物館	研究
2016年9月	魚類	標本画像	8	University of the Philippines Visayas, Philippines	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	5	京都大学	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	1	北海道大学	研究
2016年9月	魚類	液浸標本	4	国立科学博物館	研究
2016年9月	魚類	筋肉組織	1	三重大学	研究
2016年10月	魚類	液浸標本	5	Universiti Malaysia Terengganu, Malaysia	研究
2016年10月	魚類	標本画像	4	National Marine Biodiversity Institute of Korea	研究
2016年10月	魚類	筋肉組織	3	National Marine Biodiversity Institute of Korea	研究
2016年10月	魚類	液浸標本	2	ふじのくに地球環境史ミュージアム	研究
2016年11月	魚類	液浸標本	9	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年11月	魚類	液浸標本	3	Queensland Museum, Australia	研究
2016年11月	魚類	筋肉組織	17	Queensland Museum, Australia	研究
2016年11月	魚類	液浸標本	49	University of Copenhagen, Denmark	研究
2016年11月	魚類	筋肉組織	1	National Marine Biodiversity Institute of Korea	研究
2016年11月	魚類	標本画像	19	琉球大学	研究
2016年12月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2016年12月	魚類	標本画像	18	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年12月	魚類	液浸標本	1	兵庫県立川西緑台高校	研究
2016年12月	魚類	液浸標本	1	高知大学	研究
2016年12月	魚類	標本画像	8	国立科学博物館	研究
2016年12月	魚類	標本画像	18	小学館	図鑑
2016年12月	魚類	筋肉組織	17	Senckenberg Research Institute and Natural History Museum, Germany	研究
2016年12月	魚類	筋肉組織	64	東海大学	研究
2017年1月	魚類	液浸標本	7	兵庫県立川西緑台高校	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	2	大阪大学	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	32	東京農業大学	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	70	Yale Peabody Museum of Natural History, USA	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	9	Museum & Art Gallery of the Northern Territory, Australia	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	407	千葉県立中央博物館	研究
2017年1月	魚類	筋肉組織	2	Museum & Art Gallery of the Northern Territory, Australia	研究
2017年2月	魚類	液浸標本	25	Queensland Museum, Australia	研究
2017年2月	魚類	標本画像	29	Queensland Museum, Australia	研究
2017年2月	魚類	液浸標本	10	西海区水産研究所	研究
2017年3月	魚類	筋肉組織	1	Museum Victoria, Australia	研究

合計 61 件 2257 点

3. その他の標本の利用

上記以外の標本・資料の利用状況を下記の表で示す。

また、地学標本では鹿屋市下高隈太陽光発電所ボーリングコア2本、桜島・垂水ボーリングコア4本の寄贈を受け収蔵している。

地学標本の活用状況

利用年月	標本名	点数	貸出・利用先	目的
H28.5.10	菱刈鉦山 金鉦石画像	1	南日本新聞	新聞掲載
H28.6.11	赤石鉦山炭化木鉦石及び自然金	20	研究協力者 / 浦嶋・志賀	研究利用
H28.8.27 ~ 9.25	琉球列島最古のハブ化石とアマミノクロウサギの歯の化石	2	奄美市立奄美博物館	特別公開「琉球列島最古のハブ化石」と「アマミノクロウサギの歯の化石」
H28.9.14	形之山産出化石標本	900	国立科学博物館	研究利用
H29.3.15	形之山産出化石標本	200	北九州市立自然史・歴史博物館	研究利用

考古資料の活用状況

利用年月	資料名	点数	貸出・利用先	目的
H28.6.7	神領 10 号墳クビレ部出土須恵器、岡崎 18 号墳首都出土須恵器	11	西都原考古博物館	平成 28 年度特別展「化内の辺境～隼人と蝦夷～」展示
H28.7.1	神領 10 号墳盾持人埴輪画像	2	株式会社青月社	青月社刊行「はにわ」に掲載
H28.8.30 ~ 12.16	岡崎 18 号墳出土資料、神領 10 号墳出土資料	14	西都原考古博物館	展示
H28.9.2 ~ 10.8	岡崎 18 号墳 1 号地下式横穴墓画像	1	西都原考古博物館	掲載
H28.9.16	成川式土器画像	2	九州国立博物館	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」広報関係 (H29.1.1 ~ 3.5)
H28.11.22 ~ H29.2.1	神領 10 号墳クビレ部出土須恵器、岡崎 18 号墳首都出土須恵器	8	志布志市教育委員会	志布志市埋蔵文化センター企画展「志布志湾岸の古墳とヤマト政権」展示
H28.11.15	盾持人埴輪レプリカ及び画像	4	西都原考古博物館	平成 28 年度企画展「其顔容麗～顔の考古学～」に出展
H28.10.21	鹿児島大学総合研究博物館の画像	1	鹿児島県庁	鹿児島県広報誌に掲載
H28.11.17	神領 10 号墳出土鉄鏃実測図	4	高槻市教育委員会	「古代武器研究」vol.12 に掲載

その他標本・資料の活用状況

利用年月	標本・資料	点数・件数	貸出・利用先	目的
H28.6.7	直流電源装置（水銀整流器）画像	1	九州大学総合研究博物館	研究発表（日本産業技術史学会）
H28.6.10	鹿児島高等農林学校文書資料 農村調査、宮崎・大分方面旅行報告書	43	名城大学	研究利用
H28.9.1	直流電源装置（水銀整流器）画像	1	九州大学総合研究博物館	研究発表（電気学会 A 部門大会）
H28.9.23	在来馬骨格標本	30 頭分	鳥取大学	研究利用
H28.7.22	甲殻類液浸標本	89	埼玉医科大学	研究利用

8 2016年度 専任教員の活動業績

鹿野和彦 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」分担

共通教育科目「博物館資料論」分担

2) 専門教育

理学部専門科目「堆積学」

理学部専門科目「地層学実験」分担

理学部専門科目「地球環境科学入門」分担

大学院理工学研究科専門科目「火山堆積システム特論」

大学院理工学研究科専門科目「火山岩相解析特論」

3) その他

「博物館実習」分担

(2) 研究活動

1) 著書

なし

2) 論文 (査読有)

なし

3) 論文 (査読無)

なし

4) 学会発表

鹿野和彦, 始良カルデラの後カルデラ火山活動と環境変遷, 日本地質学会第123年学術大会, 東京, 2016年9月

鹿野和彦, 島根半島佐波湾における中期中新世浅海火砕丘の成長と爆発的噴火, 日本火山学会2016年度秋季大会, 富士吉田, 2016年10月

5) その他

鹿野和彦・大塚裕之, 特別公開「琉球列島最古のハブ化石とアマミノクロウサギの歯の化石」と市民講座「琉球列島のへびの起源」, 島嶼研分室だより No.3, p. 2-2, 2016年10月

鹿野和彦・小林哲夫・仲谷英夫・森脇 広 (2016) 始良カルデラにおける後カルデラ火山活動と環境の変遷に関する研究. 地学雑誌, vol. 125, 地学ニュース (平成27年度助成金報告), N114.

鹿野和彦, 田沢湖クニマス未来館パネル展示解説「田沢湖はどのようにして、いつできたのか」, 2017年1月

鹿野和彦, 石油資源開発株式会社技術研究所講演「珪長質火山 - 多様な構造と形成プロセス -」, 2017年2月

(3) 外部資金

科学技術研究費助成事業「爆発的水底噴火モデルの構築」

平成28年度年度湯沢市ゆざわジオパーク学術研究等奨励補助金

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員等

なし

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

産業技術総合研究所地質情報研究部門客員研究員

産業技術総合研究所との共同研究「鹿児島バーチャル博物館の構築」

3) 国外研究者の研究指導・共同研究等

なし

4) その他

なし

(5) 学内委員

国際島嶼教育研究センター 兼務教員

自然科学教育研究支援センター分析器施設部会委員

(6) 調査研究

2016年5月20日	志布志市夏目海岸の地質調査
2016年6月18日	指宿市知林ヶ島の地質調査
2016年7月5日～7月10日	北海道奥尻島勝潤山火山の地質調査
2016年10月14日	南九州市矢越海岸の調査
2016年10月25日～10月30日	秋田県湯沢市川原毛地獄等の地質調査
2016年11月2日～11月5日	東京都新島、向山火山の地質調査
2016年11月14日～11月17日	島根半島の地質調査
2016年12月11日	鹿児島市新島の地質調査
2016年12月18日	錦江町根占の地質調査
2016年12月24日	宮崎県高原町の地質調査
2017年1月12日	指宿市知林ヶ島の地質調査
2017年1月13日	大隅半島西岸の地質調査

橋本達也 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」担当
共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当
共通教育科目「博物館展示論」担当
共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当
教員免許状更新講習

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2015.9『成川式土器ってなんだ？—鹿大キャンパスの遺跡から出土する土器—』鹿児島大学総合研究博物館（共著 中村直子・新里貴之・篠藤マリア・寒川朋枝・久住猛雄・辻秀人・広瀬和雄：1～24、43～45、53、65～66、96～102p 橋本執筆）

橋本達也 2016.2『大隅大崎 神領10号墳の研究I』鹿児島大学総合研究博物館（単著）全36p

2) 研究論文（査読有）

橋本達也・中野和浩 2016.10「宮崎県えびの市島内139号地下式横穴墓の発掘調査概要」『日本考古学』第42号 日本考古学協会

橋本達也 2016.7「戦後70年と鹿児島の戦跡考古学」『鹿児島考古』第46号 鹿児島県考古学会

3) その他論文等（査読無）

橋本達也 2017.3「諏訪考古資料コレクション2—中世の銭貨—」『鹿児島大学総合研究博物館 News Letter』No.40 鹿児島大学総合研究博物館

橋本達也・今津節生・河野一隆・赤田昌倫・岸本圭・小嶋篤 2016.6「X線CT調査による古墳時代甲冑の分析」『日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第33回大会実行委員会

金田明大・橋本達也・中野和浩・東憲章・ナワビ矢麻 2016.6「SfM/MVSを用いた島内139号地下式横穴墓出土状況の計測」『日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第33回大会実行委員会

金田明大・橋本達也・中野和浩・東憲章・ナワビ矢麻 2016.6「3次元データの利用を考える—島内139号地下式横穴墓出土状況の計測成果より—」『日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第33回大会実行委員会

3) 学会発表

橋本達也・今津節生・河野一隆・赤田昌倫・岸本圭・小嶋篤 2016.6.5「X線CT調査による古墳時代甲冑の分析」『日本文化財科学会第33回大会』（奈良大学・奈良市）

金田明大・橋本達也・中野和浩・東憲章・ナワビ矢麻 2016.6.5「SfM/MVSを用いた島内139号地下式横穴墓出土状況の計測」『日本文化財科学会第33回大会』（奈良大学・奈良市）

4) その他

橋本達也 2016.7『えびの市島内139号地下式横穴墓 象嵌鍛冶具の新発見』えびの市教育委員会

橋本達也 2016.11 『えびの市島内 139 号地下式横穴墓 銀装円頭大刀・木装長刀・鹿角装鉄剣』 えびの市教育委員会

橋本達也 2016.11 『えびの市島内 139 号地下式横穴墓 銅鏡（倭製盤龍鏡）』 えびの市教育委員会

(3) 外部資金

競争的外部資金 研究代表者

科研費 基盤研究 B（一般）2014 年度～2017 年度予定. 「X線 CT 調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」. 研究代表者.

研究分担者

科研費 基盤研究 B. 2013 年度～2016 年度. 「武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質」(研究代表者・上野祥史・国立歴史民俗博物館准教授ほか 9 名との共同研究) 研究分担者

受託研究

えびの市 2016 年度 「宮崎県えびの市島内 139 号地下式横穴墓の研究」. 100,000 円

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（審査委員）

文化庁 重要考古資料に関する懇談会（九州地区）委員

総合研究大学院大学 博士論文審査委員

東申良町唐仁古墳群保存活用検討委員会 委員（鹿児島県肝属郡東申良町）

肝付町塚崎古墳群保存活用策定委員会 委員（鹿児島県肝属郡肝付町）

下北方地下式横穴第 5 号出土遺物再整理専門委員会委員

2) 公開講座等講師

2016 年 10 月 29 日 世田谷区教育委員会 国指定重要文化財記念シンポジウム—最新の研究から迫る—野毛大塚古墳の実像「野毛大塚古墳出土品の最新研究—鉄製武具—」 世田谷区玉川区民会館ホール

2016 年 12 月 18 日 えびの市歴史民俗資料館 企画展「島内 139 号地下式横穴墓出土品初公開」講演会 「島内 139 号墓の調査とその後の新発見—刀剣を中心に—」 えびの市文化センターホール

3) 調査指導・協力

2017 年 3 月 17 日 都城市築池 2016-2 号地下式横穴墓調査協力

2016 年 12 月 13 日 曾於郡大崎町教育委員会 飯隈鷲塚 24・25 号地下式横穴墓調査指導・協力

2016 年 11 月 29 日～12 月 7 日 えびの市教育委員会 島内 169・170 号地下式横穴墓発掘調査指導・協力

2016 年 11 月 28 日 曾於郡大崎町教育委員会 飯隈鷲塚 21 号地下式横穴墓群調査指導・協力

2016 年 8 月 23 日 都城市築池 2016-1 号地下式横穴墓調査協力

2016 年 8 月 11 日 えびの市教育委員会 島内 167・168 号地下式横穴墓発掘調査指導・協力

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

(6) 調査研究

島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査（えびの市教育委員会）

東京国立博物館円照寺墓山 1 号墳出土資料調査

(7) 報道関係

研究内容記事

2016 年 11 月 15 日「豪華な副葬品、人物像は 宮崎えびの地下式横穴墓の分析進む」朝日新聞

2016 年 7 月 28 日「金属器の権益掌握か 島内 139 号地下式横穴墓 下」宮崎日日新聞

2016 年 7 月 25 日「鍛冶具に高度な細工 島内 139 号地下式横穴墓 上」宮崎日日新聞

調査成果記事

2016 年 10 月 25 日「国内最古の鮫皮巻大刀」朝日・毎日・読売・西日本・南日本・宮崎日日新聞

2016 年 7 月 30 日「古墳時代 毛皮で小刀飾る 象嵌鍛冶具に加え鹿大・橋本准教授ら確認 えびの島内地下式横穴墓」南日本新聞

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「博物館へのいざない」(前期)

2) 専門教育

水産学部学芸員取得課程「博物館実習事前事後指導」(前期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ I」(前期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース I」(前期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AII」(前期)

水産学研究科専門科目「修士論文研究」(前期・後期)

水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ II」(後期)

水産学研究科専門科目「リーディングコース II」(後期)

水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AI」(後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)

大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

3) その他

博物館資料論 (前期)

教員免許状更新講習 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

4) 研究教育

博士研究員 1 人, 博士課程 6 人, 修士課程 5 人, 学部 3 人

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

Fukui, Y. and H. Motomura. 2016 (Apr). *Terelabrus flavocephalus* sp. nov., a new hogfish (Perciformes: Labridae) from the Maldives, Indian Ocean. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0523-x (27 Apr. 2016), 63 (4): 529-535 (7 Nov. 2016)

Hata, H. and H. Motomura. 2016 (May). Two new species of the genus *Encrasicholina* (Clupeiformes: Engraulidae): *E. intermedia* from the western Indian Ocean and *E. gloria* from the Persian Gulf, Red Sea and Mediterranean. Raffles Bulletin of Zoology, 64: 79-88.

Motomura, H., R. Causse and P. Béarez. 2016 (June). Validity of a poorly known western Pacific scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae), *Neomerinthe pallidimacula* (Fowler, 1938). Cybium, 40 (2): 109-113.

Hata, H. and H. Motomura. 2016 (June). Validity of *Encrasicholina pseudoheteroloba* (Hardenberg 1933) and redescription of *Encrasicholina heteroloba* (Rüppell 1837), a senior synonym of *Encrasicholina devisi* (Whitley 1940) (Clupeiformes: Engraulidae). Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0529-4 (20 June 2015), 64 (1): 18-28 (25 Jan. 2017)

Hata, H. and H. Motomura. 2016 (June). First record of the snake mackerel *Epinnula magistralis* (Perciformes: Gempylidae) from the Tokara Islands, Japan. Fauna Ryukyuan, 30: 11-15.

Muto, N., H. Takeshima, R. Kakioka, U. B. Alama, A. M. T. Guzman, R. S. Cruz, A. C. Gaje, R. F. M. Traifalgar, H. Motomura, F. Muto, R. P. Babaran and S. Ishikawa. 2016 (July). Rapid and cost-effective molecular identification of the three mackerel species of the genus *Rastrelliger* (Perciformes: Scombridae) using PCR-RFLP analysis. Marine Biodiversity, DOI 10.1007/s12526-016-0537-7 (5 July 2016), 47: 609-611 (June 2017)

Yoshida, T. and H. Motomura. 2016 (July). A new cardinalfish, *Verulux solmaculata* (Perciformes: Apogonidae), from Papua New Guinea and Australia. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0539-2 (11 July 2016), 64 (1): 64-70 (25 Jan. 2017)

岩坪洗樹・本村浩之. 2016 (Aug). スズメダイ科魚類 *Chromis analis* タンボポスズメダイ (新称) と *C. xouthos* ヒマワリスズメダイの日本における記録と標準和名. タクサ, 41: 40-45.

Motomura, H., R. Causse and C. D. Struthers. 2016 (Sept). First records of the deepwater scorpionfish, *Lioscorpius*

- trifasciatus* (Setarchidae), from outside Australian waters. Biogeography, 18: 23-28.
- Hata, H., M. Nishimura and H. Motomura. 2016 (Sept.). First specimen-based record of *Epinephelus quoyanus* (Perciformes: Serranidae) from Okinawa Prefecture, Japan. Biogeography, 18: 47-52.
- Yoshida, T., K. Koeda and H. Motomura. 2016 (Nov.). First Japanese specimen-based records of *Cypho zaps* (Perciformes: Pseudochromidae) from Yonaguni-jima Island, the Yaeyama Islands. Species Diversity, 21 (2):171-175. DOI: 10.12782/sd.21.2.171
- Matsunuma, M., A. G. Mazlan, A. Arshad, Y. G. Seah, S. Tafzilmeriam S. A. K., A. A. Ramasamy, R. Babaran, Y. Fukui and H. Motomura. 2016 (Nov.). Distribution range extensions of *Parapercis bicoloripes* and *P. diplospilus* (Perciformes: Pinguipedidae) in the South China Sea and the adjacent waters, with notes on ontogenetic changes in *P. bicoloripes*. Species Diversity, 21 (2):187-196. DOI 10.12782/sd.21.2.187
- Fukui, Y., N. Muto and H. Motomura. 2016 (Dec.). A new species of labrid fish *Oxycheilinus samurai* from the western Pacific Ocean. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0561-4 (8 Dec. 2016), 64 (2): 212-220 (4 Aug. 2017)
- Motomura, H., P. Béarez and R. Causse. 2016 (Dec.). Taxonomic status of *Scorpaena rawakensis* Quoy and Gaimard, 1824 (Teleostei: Scorpaenidae). Cybium, 40 (4): 326-328.
- Matsunuma, M., S. Bogorodsky, H. Motomura and A. O. Mal. 2016 (Dec.). Objective record of *Pterois russelii* (Scorpaenidae: Pteroinae) from the Red Sea. Cybium, 40 (4): 333-337.
- Hata, H. and H. Motomura. 2017 (Jan.). A new species of anchovy, *Encrasicholina auster* (Clupeiformes: Engraulidae) from Fiji, southwestern Pacific Ocean. New Zealand Journal of Zoology, DOI 10.1080/03014223.2016.1268177 (8 Jan. 2017), 44 (2): 122-128 (27 Apr. 2017)
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2017 (Jan.). Review of the genus *Banjios* (Perciformes: Banjosidae) with descriptions of two new species and a new subspecies. Ichthyological Research, DOI 10.1007/s10228-016-0569-9 (19 Jan. 2017), 64 (3): 265-294 (July 2017)
- 松沼瑞樹・山田守彦・本村浩之. 2017 (Jan.). 鹿児島県内之浦湾から得られたトラギス科ホムラトラギス *Parapercis randalli* の分布北限記録および成長にともなう形態変化. 生物地理学会会報, 71: 15-24.
- 岡本 誠・本村浩之. 2017 (Jan.). 奄美群島西方から得られた日本初記録のハナダイ亜科魚類 *Plectranthias xanthomaculatus* ユズノミハナダイ (新称). 生物地理学会会報, 71: 47-52.
- 藤原恭司・本村浩之. 2017 (Jan.). クロサギ科魚類タイワンサギの日本における分布状況. 生物地理学会会報, 71: 151-156.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2017 (Jan.). 鹿児島県奄美大島から得られたカタクチイワシ科魚類ミズスル *Encrasicholina pseudoheteroloba* の北限記録. 生物地理学会会報, 71: 203-208.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2017 (Jan.). 奄美群島から得られたテンジクダイ科の稀種ムナホシイシモチ *Ostorhinchus cheni*. 生物地理学会会報, 71: 253-258.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2017 (Jan.). カタクチイワシ科魚類シロガネアイノコイワシ *Encrasicholina heteroloba* の国内における分布状況. 生物地理学会会報, 71: 281-288.
- Koeda, K., T. Maekawa, H. Wada and H. Motomura. 2017 (Jan.; dated as 2016). Records of the Orange Goatfish, *Mulloidichthys pflugeri* (Teleostei: Mullidae), from Amami-oshima and Yonaguni-jima islands in the Ryukyu Archipelago, southern Japan. South Pacific Studies, 37 (1): 1-8.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017 (Feb.). Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1-183.
- 日比野友亮・松沼瑞樹・本村浩之・木村清志. 2017 (Feb.). 東シナ海から得られた日本初記録のウミヘビ科魚類(条鰭綱: ウナギ目) フチナシウミヘビ (新称) *Pisodonophis sangjuensis*. タクサ, 42: 41-47.
- Koeda, K., T. Fujii, S. Koeda and H. Motomura. 2017 (Mar.; dated as 2016). Fishes of Yoro-jima and Uke-jima islands in the Amami Islands: 89 new specimen-based records. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 65: 1-20.
- Hata, H., U. B. Alama, R. S. Cruz, R. P. Babaran and H. Motomura. 2017 (Mar.; dated as 2016). First specimen-based record of *Taractes rubescens* (Perciformes: Bramidae) from the Philippines. Memoirs of Faculty of Fisheries Kagoshima University, 65: 27-31.

2) 研究論文 (査読なし)

- 畑 晴陵・鍋木絃一・本村浩之. 2016 (May). ニシン科魚類オグロイワシ *Sardinella melanura* の大隅諸島からの初めての記録. Nature of Kagoshima, 42: 27-32.
- 畑 晴陵・山口 実・岩坪洗樹・本村浩之. 2016 (May). 琉球列島初記録のアオメエソ科魚類バケアオメエソ. Nature of Kagoshima, 42: 33-37.

- 畑 晴陵・伊東正英・原口百合子・本村浩之. 2016 (May). クサアジ科魚類ヒメクサアジの鹿児島県からの初記録および成長に伴う形態変化の記載. *Nature of Kagoshima*, 42: 39-43.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2016 (May). 喜界島から得られたカエルアンコウ科魚類ヒメヒラタカエルアンコウの日本から3例目の記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 45-48.
- 畑 晴陵・岩坪洸樹・原口百合子・森 幸二・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県のキンメダイ科魚類. *Nature of Kagoshima*, 42: 49-56.
- 江口慶輔・本村浩之. 2016 (May). 琉球列島におけるイトウダイ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 57-112.
- 伊東正英・小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 九州初記録のウミテング科魚類ヤリテング *Pegasus volitans*. *Nature of Kagoshima*, 42: 113-117.
- 小枝圭太・伊東正英・本村浩之. 2016 (May). 九州初記録のヨロイウオ *Centriscus scutatus*. *Nature of Kagoshima*, 42: 119-122.
- 松沼瑞樹・福井美乃・山田守彦・本村浩之. 2016 (May). 大隅半島東岸と鹿児島湾から得られたコチ科セレバスゴチ *Thysanophrys celebica*. *Nature of Kagoshima*, 42: 123-128.
- 稲葉智樹・畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). トカラ列島と奄美群島から得られた鹿児島県初記録のパケムツ (ホタルジャコ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 129-133.
- 吉田朋弘・岩坪洸樹・本村浩之. 2016 (May). 九州初記録のハタ科魚類ヌノサラシ *Grammistes sexlineatus*. *Nature of Kagoshima*, 42: 135-138.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2016 (May). 皮膚毒を有するハタ科魚類: アゴハタ *Pogonoperca punctata* の種子島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 139-142.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2016 (May). 大隅諸島種子島から得られたハタ科魚類トゲメギス *Pseudogramma polycantha*. *Nature of Kagoshima*, 42: 143-146.
- 畑 晴陵・小枝圭太・鏑木紘一・高山真由美・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県から得られたハタ科魚類3種: サラサハタ, アカマダラハタ, およびオオスジハタ. *Nature of Kagoshima*, 42: 147-156.
- 畑 晴陵・土田洋之・本村浩之. 2016 (May). 宇治群島から得られたシキシマハナダイ *Callanthias japonicus*. *Nature of Kagoshima*, 42: 157-161.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県におけるマダラテンジクダイ *Apogonichthyoides umbratilis* の分布状況. *Nature of Kagoshima*, 42: 163-167.
- 吉田朋弘・山田守彦・前川隆則・本村浩之. 2016 (May). 標本に基づく鹿児島県初記録のイナズマヒカリイシモチ *Siphamia argentea* (スズキ目: テンジクダイ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 169-172.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2016 (May). 大隅諸島初記録のテンジクダイ科魚類クダリボウズギス. *Nature of Kagoshima*, 42: 173-177.
- 岩坪洸樹・木村清志・本村浩之. 2016 (May). 東シナ海と鹿児島県枕崎市沖から得られた日本初記録のアジ科魚類 *Decapterus smithvanizi* サクラアジ (新称). *Nature of Kagoshima*, 42: 179-182.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたアジ科魚類ホシカイワリ *Carangoides fulvoguttatus*. *Nature of Kagoshima*, 42: 183-186.
- 藤原恭司・本村浩之. 2016 (May). 標本に基づく鹿児島県のヒイラギ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 42: 187-202.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). トカラ列島から得られたゴマサバの胃内容物からみつかったマルバラシマガツオ (シマガツオ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 203-206.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016 (May). トカラ列島から得られたハチビキ科魚類ロウソクチビキ *Emmelichthys struhsakeri*. *Nature of Kagoshima*, 42: 207-211.
- ジョン ビョル・中江雅典・小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). フェダイ科タテフエダイ *Lutjanus vitta* の奄美大島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 213-217.
- 江口慶輔・本村浩之. 2016 (May). フェダイ科ヨゴレアオダイ *Paracaesio sordida* の種子島と奄美大島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 219-223.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). 種子島から得られたナガサキフエダイ *Pristipomoides multidentis*. *Nature of Kagoshima*, 42: 225-229.
- 畑 晴陵・鏑木紘一・本村浩之. 2016 (May). クロサギ科魚類ホソイトヒキサギの日本沿岸からの6番目の記録. *Nature of Kagoshima*, 42: 231-235.
- 畑 晴陵・山田守彦・前川隆則・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県大隅半島東岸と奄美大島から得られたイサキ科魚類エリアカコシヨウダイ *Plectorhinchus unicolor*. *Nature of Kagoshima*, 42: 237-241.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県内之浦湾から得られたイサキ科魚類セトダイ *Hapalogenys analis*. *Nature of Kagoshima*, 42: 243-248.
- 畑 晴陵・中江雅典・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたイトヨリダイ科魚類タマガシラ *Parasclopsis inermis*. *Nature of Kagoshima*, 42: 249-254.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたイトヨリダイ科魚類ヤクシマキツネウオ

- Pentapodus aureofasciatus*. Nature of Kagoshima, 42: 255-258.
- 小枝圭太・前川隆則・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたシモフリフエフキ *Lethrinus lentjan* の北限記録. Nature of Kagoshima, 42: 259-263.
- 上城拓也・小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県初記録のニベ科魚類クログチ. Nature of Kagoshima, 42: 265-268.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016 (May). 大隅諸島とトカラ列島から得られた薩南諸島初記録のアオバダイ. Nature of Kagoshima, 42: 269-273.
- 小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 琉球列島から初めて採集されたダイダイヤッコ *Centropyge shepardi*. Nature of Kagoshima, 42: 275-278.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). 奄美群島徳之島から得られたタカノハダイ *Cheilodactylus zonatus*. Nature of Kagoshima, 42: 279-287.
- 小枝圭太・岩坪洗樹・本村浩之. 2016 (May). 奄美群島喜界島から得られたヒマワリスズメダイ *Chromis analis*. Nature of Kagoshima, 42: 289-292.
- 福井美乃・小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 標本に基づくヒノマルテンス (ベラ科) の奄美大島と加計呂麻島からの記録, および成長に伴う形態変化に関する知見. Nature of Kagoshima, 42: 293-298.
- 小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 下甌島と奄美大島から得られたキツネブダイ *Hipposcarus longiceps* の分布北限記録および性的二型に関する知見. Nature of Kagoshima, 42: 299-304.
- 田代郷国・木村祐貴・本村浩之. 2016 (May). イソギンポ科ジュズダマギンポ *Blenniella interrupta* の種子島からの記録. Nature of Kagoshima, 42: 305-309.
- 福井美乃・本村浩之. 2016 (May). 甌島列島から得られた国内2例目となるイソギンポ科オボロゲタガミカエルウオ. Nature of Kagoshima, 42: 311-314.
- 小枝圭太・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたヒフキアイゴ *Siganus (Lo) unimaculatus* の標本に基づく北限記録. Nature of Kagoshima, 42: 315-320.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県から得られたタチウオ科魚類ヒレナガユメタチ *Evoxymetopon poeyi*. Nature of Kagoshima, 42: 321-325.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県北部から得られたサバ科魚類グルクマ. Nature of Kagoshima, 42: 327-332.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2016 (May). 鹿児島県から得られたフグ科魚類クマサカフグ *Lagocephalus lagocephalus*. Nature of Kagoshima, 42: 333-338.
- 小枝圭太・興 克樹・本村浩之. 2016 (May). 奄美大島から得られたマンボウ科の稀種ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*. Nature of Kagoshima, 42: 339-342.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之・喜種翔平・上城拓也・岩坪政光. 2016 (May). 鹿児島県南九州市頰娃町番所鼻自然公園地先の魚類リスト 2014-2015. Nature of Kagoshima, 42: 353-360.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016 (June). 長崎県橘湾から得られたシマガツオ科魚類マルバラシマガツオ *Brama orcinii*. 長崎県生物学会誌, 78: 22-24.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2016 (June). 鹿児島県から得られたオオメメダイ科魚類ミナミメダイ *Ariomma brevimanum*. 南紀生物, 58 (1): 44-47.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2016 (Dec.). 長崎県橘湾から得られたネズッポ科魚類クジャクソコヌメリ. 長崎県生物学会誌, 72: 36-39.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2017 (Jan.). 鹿児島県から得られたイトヨリダイ科魚類シャムイトヨリ *Nemipterus peronii*. 南紀生物, 58 (2): 215-218.

3) 著書

- 本村浩之 (監修). 2016 (July). なぜ? の図鑑 魚. 株式会社学研プラス, 東京. 128 pp.
- 本村浩之 (監修). 2016 (July). 学研の図鑑 LIVE・魚. ポータブル版. カバヤ食品株式会社, 岡山市・株式会社学研プラス, 東京. 16 pp.
- 本村浩之 (監修). 2016 (July). 学研の図鑑 LIVE・危険生物 (魚). ポータブル版. カバヤ食品株式会社, 岡山市・株式会社学研プラス, 東京. 16 pp.
- Motomura, H. 2016 (July). Polynemidae. Threadfins. Pp. 2621-2628. In Carpenter, K. E. and N. De Angelis (eds.). The living marine resources of the eastern central Atlantic. FAO species identification guide for fishery purposes. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Perciformes to Tetradontiformes) and sea turtles. FAO, Rome.
- 本村浩之 (監修). 2016 (July). 学研の図鑑 LIVE・魚. 第二版, 改訂版. 株式会社学研プラス, 東京. 248 pp.
- 岩坪洗樹・加藤 紳・本村浩之 (編). 2016 (July). 南九州頰娃の海水魚. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎市・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・シーホースウェイズ, 南九州市. 80 pp.
- 松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之. 2016 (Aug.). 鹿児島市の川魚図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 86 pp.,

221 figs.

本村浩之. 2016 (Nov.). 未知の巨大魚を発見!, P. 8. We Love Fishes 魚好きやねん. 東海大学出版部, 秦野市.

Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. Babaran, and S. Ishikawa (eds.). 2017 (Jan.). Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 246 pp., 911 figs.

本村浩之. 2017 (Feb.). わくわく発見! 教科書に出てくる生きもののすみか 第4巻「水の生きもの」. 学習研究社, 東京.

Motomura, H. 2017 (Mar.). Review of the ichthyofauna of Yaku-shima island in the Osumi Islands, southern Japan, with 15 new records of marine fishes. Pp. 74-80. In Kawai, K., R. Terada and S. Kuwamura (eds.) The Osumi Islands: Culture, Society, Industry and Nature. Hokuto Shobou, Kyoto.

4) その他の出版物

本村浩之. 2017 (Jan.). 鹿児島大学の海外フィールド調査. 2016年度アンコール遺跡整備公団インターンシップ報告書, 59-60.

本村浩之・国立科学博物館生物多様性ホットスポット魚類チーム. 2017 (Feb.). 魚類日本固有種目録. 日本固有種目録, 国立科学博物館, つくば市. 4 pp.

本村浩之. 2017 (Mar.). フィリピン大学における魚類コレクションの構築とパナイ島の魚類多様性調査. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 40: 8-11.

5) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2016 (14 Apr.). 総合研究博物館における ABS 対策の現状と問題点. 海外遺伝資源に係る生物多様性条約 / 名古屋議定書セミナー. 鹿児島大学総合研究博物館第21回研究交流会. 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島市.

Lavoue, S., H.-Y. Wang, J. Bertrand, W.-J. Chen, H.-C. Ho, H. Motomura, T. Sado and M. Miya. 2016 (18-21 May). Macro and microevolution of the anchovy genus *Encrasicholina* (Engraulidae), an important marine resource of the Indo-West Pacific region. 2016 Annual Meeting of the Ichthyological Society of Taiwan and the Asian Society of Ichthyologists, Nangang Exhibition Center, Taipei.

中江雅典・瀬能 宏・萩原清司・本村浩之・横山貞夫・山川 武・篠原現人・松浦啓一. 2016 (11-12 June). 奄美大島および周辺海域の魚類学研究史と浅海性魚類相 (予報). 第52回日本動物分類学会大会. 北海道大学札幌キャンパス, 札幌市.

Araki, Y., H. Motomura and all members of Teams EMSB and ERDAC. 2016 (22 June). Aquatic vegetation in the re-inundated North Baray Reservoir. The 26th Technical Session, International Coordinating Committee for the Safeguarding and Development of the Historic Site of Angkor, APSARA Authority, Siem Reap.

畑 晴陵・R. Babaran・本村浩之. 2016 (24 Sept.). カタクチイワシ科ヤエヤマアイノコイワシに適用すべき学名およびフィリピンから得られた1未記載種. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

松沼瑞樹・本村浩之. 2016 (24 Sept.). フサカサゴ科ヒメヤマノカミ属の2未記載種. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

福井美乃・武藤望生・本村浩之. 2016 (24 Sept.). 西太平洋から得られたベラ科ホホスジモチノウオ属の2未記載種. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

吉田朋弘・本村浩之. 2016 (24 Sept.). 南西諸島から得られたコミナトテンジクダイ属の1日本未記録種と1未記載種. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

藤原恭司・本村浩之. 2016 (24-25 Sept.). 鹿児島県宇治群島から得られたウバウオ科ミサキウバウオ属の1未記載種. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

稲葉智樹・本村浩之. 2016 (24-25 Sept.). オニオコゼ科 *Inimicus joubini* は *I. japonicus* の新参異名: セトオニオコゼはオニオコゼの種内変異. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

Wibowo, K.・戸田 実・本村浩之. 2016 (24-25 Sept.). Identifications of nominal species previously synonymized under *Abudefduf vaigiensis* (Quoy and Gaimard, 1824) (Pomacentridae). 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

川間公達・瀬能 宏・本村浩之. 2016 (24-25 Sept.). 日本産イソギンポ科タマカエルウオ属魚類の分類学的研究. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

武藤望生・A. Gaje・R. Cruz・U. Alama・A. Guzman・R. Traifagar・R. Babaran・本村浩之・武藤文人・武島弘彦・石川智士. 2016 (25 Sept.). 西太平洋におけるオニアジの隠蔽種と交雑. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

本村浩之・塚脇真二. 2016 (25 Sept.). カンボジア・トンレサップ湖とアンコール世界遺産公園内の魚類多様性. 第49回日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜市.

- Muto, N., U. B. Alama, A. M. T. Guzman, R. S. Cruz, A. C. Gaje, R. Kakioka, H. Takeshima, H. Hata, H. Motomura, F. Muto, R. F. M. Traifalgar, R. P. Babaran and S. Ishikawa. 2016 (5-7 Dec.). Solving the mixed-stock problem by an integrative approach: A case study of the genus *Rastrelliger* (Pisces: Perciformes: Scombridae). The 25th Federation of Asian and Oceanian Biochemists and Molecular Biologists International Conference and the 43rd Philippine Society for Biochemistry and Molecular Biology Annual Convention. Philippine International Convention Center, Manila, Philippines.
- 小枝圭太・立原一憲・本村浩之. 2017 (11-12 Feb.). 鹿児島県におけるハタンボ属魚類の産卵期と年齢：緯度の違いは生活史に現れるか？第28回魚類生態研究会，長崎大学，長崎市。
- 藤原恭司・岡田翔平・田上英明・毛利雅彦・本村浩之. 2017 (11-12 Feb.). 山口県響灘および見島から採集された日本海初記録を含む魚類。第28回魚類生態研究会，長崎大学，長崎市。
- 村瀬敦宣・三木涼平・本村浩之. 2017 (11-12 Feb.). アゴハゼとドロメ（ハゼ科：アゴハゼ属）の分布南限域の再検討。第28回魚類生態研究会，長崎大学，長崎市。
- Ishikawa, T., H. Oyagi, H. Motomura, Y. Araki and S. Tsukawaki. 2017 (1-2 Mar.). Importance of seasonal water level fluctuation in lake ecosystems: possibility of high productivity of Lake Tonle Sap. Symposium on UNESCO Programmes for Sustainable Development in East and Southeast Asia - World Heritage, Biosphere Reserves and Global Geoparks -. Natural Science Lecture Hall, Kakuma Campus, Kanazawa University, Kanazawa.
- Motomura, H. and A. Arshad. 2017 (14-16 Mar.). Annual report on activities of the JSPS RENSEA fish group during 2016. Research and Education Network on Coastal Ecosystems in Southeast Asia (CCore-RENSA: 2016-2018). First CCore-RENSA Seminar on Coastal Ecosystems in Southeast Asia. Universiti Putra Malaysia, Serdang.

(3) 外部資金

競争的外部資金（代表）

日本学術振興会 科研費基盤研究（C）「汎世界分類群マツバラカサゴ属（フサカサゴ科）の分類・生態学的研究」
フランス国立自然史博物館 客員研究員助成金「南太平洋から採集されたフサカサゴ科魚類の分類学的研究」

競争的外部資金（分担・連携）

日本学術振興会 研究拠点形成事業－B. アジア・アフリカ学術基盤形成型－「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」

日本学術振興会 科研費基盤研究（A）「亜熱帯島嶼生態系における水陸境界域の生物多様性保全の研究」

日本学術振興会 科研費基盤研究（B）（海外学術調査）「カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の再評価」

総合地球環境学研究所 一般共同研究「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上」

国立科学博物館 「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」

文部科学省 特別経費－地域貢献機能の充実－「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」

(4) 社会貢献・学外活動

日本魚類学会 評議員

日本魚類学会 学会賞選考委員

日本魚類学会 ABS対策チーム 委員

日本生物地理学会 評議員

国際自然保護連合 種の保存委員（珊瑚礁性魚類分野）

オーストラリア博物館 客員研究員

総合地球環境学研究所 共同研究員

インド・太平洋魚類国際会議 運営委員会 委員

マレーシア・トレンガヌ大学人事委員会 委員

金沢大学環日本海域環境研究センター 外来研究員

かごしま水族館 評議員

鹿児島県自然環境保全協会 理事

鹿児島県純心女子短期大学 非常勤講師

桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員

The Philippine Journal of Systematic Biology Editorial Board

特別研究員等審査会委員・国際事業委員会書面審査員

Organizer for Integrative Approaches in Understanding Fish Diversity: Morphology, Systematics, Taxonomy and Biogeography at Indo-Pacific Fish Conference in Tahiti

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長
総合研究博物館人事選考委員会 委員長
企画・評価委員会 委員
グローバルセンター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
国際島嶼教育研究センター 交流企画部会委員
国際島嶼教育研究センター 9分野 島嶼適応領域 島嶼教育分野担当
大学院連合農学研究科入試委員会 委員

(6) 主な調査研究

2016年4月22～25日：トカラ列島平島
2016年5月16～6月26日：フランス国立自然史博物館（パリ）・ロンドン自然史博物館（ロンドン）
2016年7月11～20日：沖永良部島
2016年8月28～9月5日：カンボジア（シェムリアプ）
2016年9月11～17日：フィリピン（パナイ島）
2016年10月4～7日：奄美大島
2016年12月5～9日：国立科学博物館
2016年12月12～13日：大阪市立自然史博物館
2016年12月17～24日：カンボジア（トンレサップ湖）
2017年1月14～16日：屋久島
2017年2月10～22日：西オーストラリア博物館（パース）オーストラリア博物館（シドニー）・クイーンズランド博物館（ブリスベン）
2017年3月3～13日：フランス国立自然史博物館（パリ）・フンボルト大学博物館（ベルリン）・センケンベルグ自然史博物館（フランクフルト）
2017年3月20～25日：フィリピン（パナイ島）

(7) 報道関係

世界さまぁ～リゾート。冒険心くすぐられる フィリピン秘島リゾート SP. TBS, 2016年5月21日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。南太平洋の真珠 タヒチ ボラボラ島のマストスポット。TBS, 2016年5月28日, 0:00～（魚の同定と解説）
和名「サクラアジ」国内未確認、枕崎沖で採取。岩坪さん（枕崎）命名。南日本新聞, 2016年6月4日
世界さまぁ～リゾート。ベトナム最後の楽園 フーコック島 押さえておきたいだいたい50のこと。TBS, 2016年6月18日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。大注目のリゾート地 キューバ/バラデロ。TBS, 2016年7月9日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。キューバの首都・ハバナのマストスポット SP. TBS, 2016年7月23日, 0:00～（魚の同定と解説）
ダーウィンが来た！生きもの新伝説。NHK, 2016年7月24日, 19:30-19:58（魚類の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。マレーシア ボルネオ島のマストスポット SP. TBS, 2016年7月30日, 0:00～（魚の同定と解説）
南九州・顔娃の魚図鑑。番所鼻自然公園の海限定149種。読売新聞, 2016年8月4日
世界さまぁ～リゾート。マレーシア ネイチャーアイランド SP. TBS, 2016年8月6日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。マルタ島 マストスポット SP. TBS, 2016年8月13日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。マルタ ネイチャーアイランド SP. TBS, 2016年8月27日, 0:00～（魚の同定と解説）
よみこの無人島0円生活。テレビ朝日, 2016年9月3日, 21:00-23:30（魚類の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。番組ロケディレクターが選ぶベストビーチ SP. TBS, 2016年9月3日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。現地調査 SP in マイアミ。TBS, 2016年9月10日, 0:00～（魚の同定と解説）
命名タンポボスズメダイ 枕崎の岩坪さん 学会誌発表。読売新聞, 2016年9月17日
世界さまぁ～リゾート。マイアミ現地調査 SP 2週目。TBS, 2016年9月17日, 0:00～（魚の同定と解説）
世界さまぁ～リゾート。タンザニア ザンジバル SP. TBS, 2016年10月8日, 0:00～（魚の同定と解説）

世界さまぁ〜レポート. タンザニア・ペンバ島 超先取りマストスポット SP. TBS, 2016年10月22日, 0:00〜(魚の同定と解説)

黒潮に浮かぶ屋久島 海に隠されたミラクル. 「奇跡の絶景」屋久島号, 28-29, 2016年11月(解説+コメント)

世界さまぁ〜レポート. ドバイ最新&マストスポット SP. TBS, 2016年11月12日, 0:00〜(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜レポート. ドバイ王道スポット SP. TBS, 2016年11月19日, 0:00〜(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜レポート. はじめてのロスカボス SP. TBS, 2016年11月26日, 0:00〜(魚の同定と解説)

魚の氷浸け スケートリンクなぜ「炎上」? ニュース Q3. 朝日新聞, 2016年11月29日(解説+コメント)

世界さまぁ〜レポート. 確実にイイねがもらえるロス・カボス SP. TBS, 2016年12月3日, 0:00〜(魚の同定と解説)

ミャンマー古代湖に異変. 固有種2種絶滅か. 読売新聞, 2016年12月3日(事実確認・意義コメント)

世界さまぁ〜レポート. ナイーブ大竹現地調査 SP タイ・クラブ. TBS, 2016年12月10日, 0:00〜(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜レポート. ナイーブ大竹現地調査 SP 後編タイ・クラブ. TBS, 2016年12月17日, 0:00〜(魚の同定と解説)

櫻井・有吉 THE 夜会. TBS, 2016年12月24日, 21:57〜(魚の解説)

世界さまぁ〜レポート. 直行便で8時間半! ニューカレドニア ベタ&ツウ SP. TBS, 2016年12月24日, 0:00〜(魚の同定と解説)

よゐこの無人島0円生活 お正月サバイバル2本立て6時間 SP. テレビ朝日, 2017年1月3日, 7:00-13:00(魚類の同定と解説)

世界さまぁ〜レポート. パラオ共和国・王道スポット. TBS, 2017年2月25日, 0:00〜(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜レポート. パラオ現地日本人に聞いた絶対がっかりしないおすすめスポット SP. TBS, 2017年3月4日, 0:00〜(魚の同定と解説)

種子島のさかな. 種子島 島魚ガイド. 熊毛のさかな魅力発見・発信委員会, 2017年3月(魚の写真提供)

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

その他

鹿児島大学法文学部・理学部・農学部・水産学部開講の「博物館実習」の不足分を補う実習(2日)の補助を行った。

(2) 研究活動

1) 研究論文(査読有)

山根正気・福元しげ子・前田芳之・佐藤幸雄. 2016 (Dec). 奄美群島加計呂麻島からのアリ類の記録. 日本生物地理学会会報, 71: 131-137.

2) 研究論文(査読無)

福元しげ子・山根正気・平 瑞樹. 2015 (May). 奄美群島与路島のアリ. Nature of Kagoshima, 42: 461-464.

3) 著書

山根正気・福元しげ子. 2017 (Mar). 薩南諸島における放浪種アリ類. Pp. 108-131. 鹿児島大学生物多様性研究会(編), 奄美群島の外来生物. 南方新社, 鹿児島.

4) その他出版物

福元しげ子. 2016 (May). Information 鹿児島大学総合研究博物館. Nature of Kagoshima 43: 487-490.

5) 調査研究

2016年4月30日〜5月1日: 鹿児島郡三島村硫黄島における外来アリモニタリング調査

2016年5月5日: 始良市池島公園、白銀坂におけるアリ類サンプリング調査

2016年5月16日〜5月17日: 鹿児島郡十島村口之島アリ類サンプリング調査

2016年6月9日〜11日: 加計呂麻島におけるアリ類サンプリング調査

2017年3月7日〜10日: 竹島・黒島・硫黄島におけるアリ類サンプリング調査

鹿児島大学総合研究博物館 第16回 特別展

水から陸へーカニたちの多彩な生活

Deep Sea to Inland, Various Life-Style of Crabs

鰓呼吸をするカニたちは、なぜ深海から陸へと上がったのか？
それを可能にしたものは？
彼らの多彩な生活を通してその謎に迫る！

【日時】平成28年 **10月20日～11月16日** 10:00～17:00
休館日：10月30日、11月6日、12日、13日

【場所】鹿児島大学郡元キャンパス
中央図書館ギャラリー“アトリウム”

入場無料

**特別展開連企画
かごしま水族館共催**

**第30回 市民講座
「カニたちは、なぜ陸に上がったのか！」**

【講師】鈴木 廣志（鹿児島大学水産学部）
【日時】平成28年10月29日（土）13:30～15:00
【場所】かごしま水族館レクチャールーム
聴講無料（水族館入館料は必要です）

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141 | Fax: 099-285-7267
URL: <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿兒島大学総合研究博物館
第21回研究交流会

2016年4月14日(木)
16:30~

【会場】鹿兒島大学都元キャンパス
理学部1号館2階大会議室



海外遺伝資源に係る
生物多様性条約 / 名古屋議定書セミナー

- 【プログラム】**
- ①16:30 ~ 17:30
[海外遺伝資源に関する名古屋議定書の最新情報の提供]
国立遺伝学研究所知的財産室 室長 ABS 学術対策チーム 鈴木 睦昭
 - ②17:30 ~ 17:40
[ABS 学術対策チームの概要と活動紹介]
国立遺伝学研究所 ABS 学術対策チーム 榎本 美千子
※別途、個別相談をご希望の方はABS 学術対策チーム榎本 (menomoto@nig.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。
 - ③17:40 ~ 17:50
[総合研究博物館におけるABS 対策の現状と課題点]
鹿兒島大学総合研究博物館 館長 本村 浩之
 - ④17:50 ~ 質疑応答
- 【対 象】** 海外から取得した遺伝資源（生物資源）を利用した研究を行っている研究者の方、海外の研究者と共同研究されている方、海外から生物系留学生を受け入れている方、遺伝資源を保存されている部署の方、研究企画立案・実行責任者、とそれらの研究を支援されている知財・研究推進・産学連携・URA・海外連携等に所属する担当者。
- 【概 要】** 研究やバイオテクノロジーによって新たな価値を生じる動物、植物、微生物が遺伝資源と呼ばれており、生物学の研究において広く利用されている。遺伝資源の入手移動や利用に関して、1993年に発効した生物多様性条約で決定されたが、その実行性を高めるため、遺伝資源利用の利益配分に関する国際的・法的拘束力のある名古屋議定書が採択され、2014年10月12日に発効した。現在、日本では名古屋議定書に基づく国内措置の検討が環境省を主体として関係省庁間で進められている。非商用研究である研究機関や大学の基礎研究においても名古屋議定書の例外ではなく、遺伝資源利用者が提供国の法律法令を遵守すること、事前同意（PIC）を取得する、また利益配分の項目が入った相互同意（MAT）を行うことが求められている。このような状況の下、大学での名古屋議定書対応が早急に必要なようになってきている。
- 【問 合 せ】** 鹿兒島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿兒島市都元 1-21-30 TEL: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267



鹿兒島大学総合研究博物館
第16回自然体験ツアー

「南限ブナ林の植物観察」 参加者募集
標高1067mの山頂近くまで車で行ける紫尾山は、北日本に多いブナ林の南限地帯にあります。そこにどのような植物が分布しているか観察しましょう。

日 時：2016年7月31日(日) 10:30~15:00頃まで
案 内 者：鈴木英治（鹿兒島大学理学部教授）ほか博物館スタッフ
集合場所：紫尾山山頂（薩摩郡さつま町平川）

（下の地図参照。山頂近くに駐車場があります）
参 加 費：100円（保険料など） 当日徴収
応募方法：参加希望の方は、①参加される方のお名前、②人数（小学生以下の方は年齢も）、③連絡先電話番号、メールアドレスをご記入の上、メール、FAX、はがきのいずれかで下記宛先までお申し込み下さい。
電子メール：info@kaum.kagoshima-u.ac.jp
（メールは件名に必ず「自然体験ツアー申込み」と入れて下さい）
FAX：099-285-7267
住所：〒890-0065 鹿兒島市都元1丁目21-30
鹿兒島大学総合研究博物館

応募締切：2016年7月15日(金) 16:00 必着
募集定員：20名(受付順)
※7月20日(水) 13:00までに当館から連絡のない場合にはご一報下さい。
※個人情報は、この企画の目的以外には使用いたしません。
※迷惑メール対策のためにスマートフォンや携帯電話のメール設定でドメイン指定受信をされている方はメールが届かないことがあります。
当日の持ち物：弁当・飲み物、雨具、ハイキング程度できる服装。
注意事項：少雨決行、大雨の場合は中止(メール等で連絡します)。



行き方
鹿兒島市内から：国道3号線から 小山田町で県道328号線に入り 郡山町、入来峠、入来町を線路して宮之城に至り、宮之城橋で川内川を渡ってすぐに左折して504号線に入る。504号線沿いの堀切峠で、右折して紫尾山山頂に向かう林道に入る。舗装された林道を山頂近くまで進むと、集合場所の駐車場に至る。（所要時間2時間から2時間半）
川内市方面から：県道267号線から県道328号線に入り宮之城に行き、あとは鹿兒島市内からと同じ。
出水市方面から：高尾野から504号線に入り、堀切峠に至る。あとは鹿兒島市内からと同じ。
（参加される方には、後で詳しい地図をお送りします）

問い合わせ：鹿兒島大学総合研究博物館（代表）：099-285-8141

第16回 鹿兒島大学総合研究博物館 公開講座

夏休み特別企画

超巨大火山、
スーパーボルケーノを作ろう！

「世界一おいしい火山の本〜チョコやココアで噴火実験〜」（小峰書店刊）の著者が実演する入浴剤火砕流実験、ココアカルデラ実験、溶岩実験、スポンジ実験など、身近な材料を使った実験を通して、スーパーボルケーノがどのようにしてできるのかを楽しみながら学びます。

鹿兒島湾の始良カルデラもスーパーボルケーノのひとつです。カルデラを形成した巨大噴火のなぞもわかるかもしれません。

【日 時】2016年7月23日(土) 13:00~15:00

【場 所】鹿兒島大学都元キャンパス共通教育棟3号館1階311号室

【対象者】火山に興味のある方。とくに子供たち、親子連れは大歓迎です。

【備 考】入場料無料。予約不要。定員（200名）を超え次第締め切ります。

【アクセス】市電「工学部前」下車、徒歩5分。

車の方は中央図書館側ゲートへお越し下さい。担当者がゲートを開けます。



【講 師】林 信太郎（はやし しんたろう）
秋田大学教育文化学部教授。同附属小学校校長。
専門は火山地質学。「キッチン火山学」による火山防災教育などの社会貢献で2015年度日本火山学会賞受賞。

【問合先】鹿兒島大学総合研究博物館
電話：099-285-8141 ファックス：099-285-7267
E-mail：info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿兒島大学総合研究博物館 第22回 研究交流会

先史時代の
奄美に鉄器を伝えた
種子島人のはなし

文字のない先史時代に九州本土、種子島、奄美の間を人びとはどのように交流し、どう影響を与えあったのか、考古学で読み解きます。

講師：木下尚子
熊本大学文学部教授

2016年10月15日(土) 13:30~15:00
会場：理学部2号館・211号室

鹿兒島大学総合研究博物館
890-0065 鹿兒島市都元 1-21-30
099-285-8141

鹿児島大学総合研究博物館
第32回市民講座

琉球列島のヘビ類の起源

講師：池田忠広博士（兵庫県立人と自然の博物館）

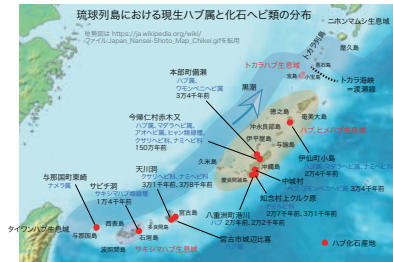
場所：奄美市立奄美博物館

日時：2016年8月27日（土）

午後13:00～15:00（展示解説を含む）

入場：無料 同時開催 特別公開「琉球列島最古のハブ属の化石」と「アマミノクロウサギの歯の化石」

琉球列島では、200万年前以降の堆積物から、多くの脊椎動物化石とともに複数のヘビ類化石が産出します。その多くは遊離した椎骨ですが、その特徴的な形質を見極め、現生種の椎骨と比較することで種類を特定したのが池田先生です。池田先生は、鹿児島大学大塚裕之名誉教授とともに、鑑定結果に基づいて、150万年前の沖縄島には既にハブ類が生息していたこと、宮古島には現在は同島に生息していないハブやナミヘビ類を含む複数のヘビ類が生息していたこと、などを明らかにしています。今回の講座では、琉球列島各地に産出するヘビ化石とはどのようなものか、また、それらヘビ類がどこから来たのか、そしていつ消滅したのかなど、様々な話題についてお話しをうかがう予定です。



主催：鹿児島大学総合研究博物館
共催：奄美市教育委員会・鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育拠点整備」プロジェクト
後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
問合せ：鹿児島大学総合研究博物館（電話 099-285-8141 電子メール info@kaum.kagoshima-u.ac.jp）
または 奄美博物館（電話 0997-54-1210）

鹿児島大学総合研究博物館・かごしま水族館共催事業
鹿児島大学総合研究博物館 第16回特別展
『氷から陸へ—カニたちの多彩な生活』関連講演会（兼）第30回市民講座
「カニたちは、なぜ陸にあがったのか!」

【日時】平成28年10月29日（土）13:30～15:00
【場所】かごしま水族館 1階レクチャールーム

【講師】鈴木 廣志（鹿児島大学水産学部）
【対象】どなたでも
【料金】無料（ただし、入場料または年費/スポーツは必要）
【内容】本来水中で呼吸するカニが陸上に生活の場を移したのは何故か？またそれを可能にしたのは何か？カニの多彩な生活様式を示しながら、その理由について考えます。
【定員】先着50人
※ゆうゆうカード対象講座となります。

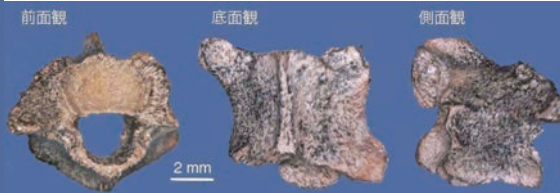
【募集締切】10月22日（土）
【募集方法】お名前、年齢、電話番号、メールアドレスを記入してFaxはがき、メールのいずれかで応募ください。
〒892-0814 鹿児島市本港新町3-1
かごしま水族館 展示課学習交流係
Fax: 099-223-7692
E-mail: cubo@icoworld.jp

鹿児島大学総合研究博物館
〒990-0085 鹿児島市牧野1-21-30
Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7287
URL: http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/

いおワールド かごしま水族館
〒992-0814 鹿児島市本港新町3-1
Tel: 099-228-2233 Fax: 099-223-7692
URL: http://ioworld.jp

特別公開 場所：奄美博物館企画展示室 期間：平成28年8月27日（土）～9月25日（日）

沖縄本島で
150万年前の地層から発見された
琉球列島最古のハブ属の化石



主催：鹿児島大学総合研究博物館

共催：奄美市教育委員会・鹿児島大学「薩南諸島の生物多様とその保全に関する教育拠点整備」プロジェクト
後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
問合せ：鹿児島大学総合研究博物館（電話 099-285-8141 e-mail info@kaum.kagoshima-u.ac.jp）または 奄美博物館（電話 0997-54-1210）

徳之島で
発見された2万年前の
アマミノクロウサギの
歯の化石



特別公開
かわひがし へきとつ

河東 碧梧桐の直筆俳句
—旧制 鹿児島高等農林学校 指宿植物試験場の芳名録2—

一九三二（昭和六）年
河東碧梧桐が歩いた
南国指宿

五利喜造の拓いた植物試験場

中山克彦の出会った人びと

期間：2016年11月11日～12月10日
場所：鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室
入場無料

鹿児島大学総合研究博物館

新しい展示
のお知らせ
諏訪コレクション
中世の銭貨
2016.12.13～

鹿児島大学
総合研究博物館 常設展示室

10 奄美の高倉 解説板データ

現存最古 奄美の高倉

この建物は、1883（明治16）年に奄美大島の大島郡大和村恩勝に泉 富喜久氏によって建てられた来歴がわかる現存最古の奄美の高倉です。

建築史資料として1971（昭和46）年に鹿児島県立博物館に移築、展示されていましたが、2001（平成13）年に火災で損傷しました。その後2002年に工学部 土田充義教授（当時）が中心となり、ここで修復・再建されました。

柱・梁・隅木などの用材は、すべて堅いイジュ（ツバキ科ヒメツバキ属）を用いています。再建には知覧町茅葺技術保存会の協力がありました。

高倉とは
奄美地域に特有の伝統的建築物で、高床式の倉庫です。主に穀物を貯蔵しました。湿気を防ぐために床を高くして風を通し、ネズミが侵入できないよう柱を滑らかにしています。釘を使わないこと、壁がなく水平材を棟から降ろした隅木で吊るすなどの独特の技法を用いています。昇降には一木から削りだした簡素な梯子を用いることが一般的でした。高倉は奄美の風土に根ざした代表的な文化財です。

焼損前の状態（鹿児島県立博物館での展示）

はしご掛けの装飾（今はみえない）

高倉の細部名称

高倉の内部

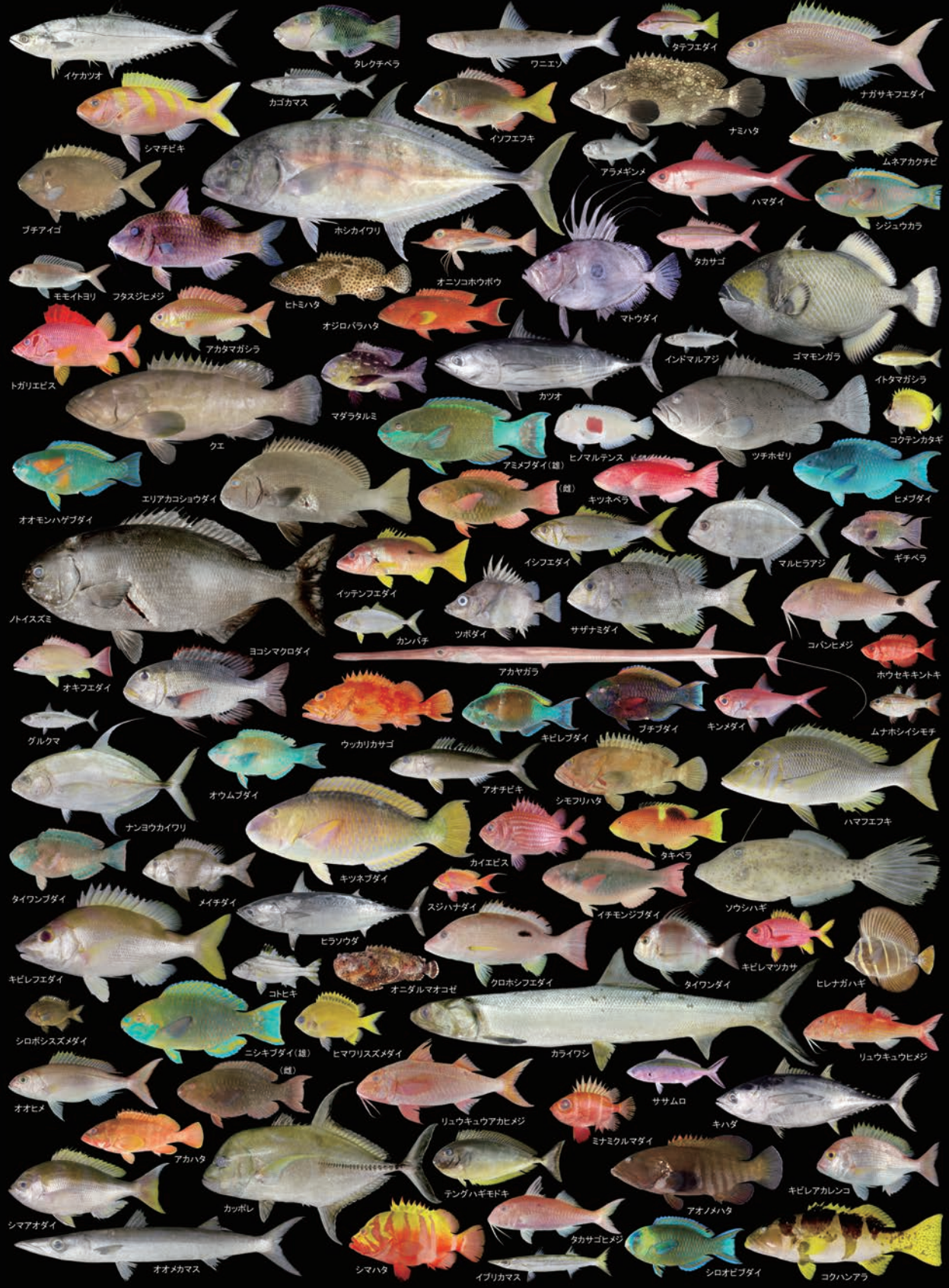
鹿児島大学総合研究博物館

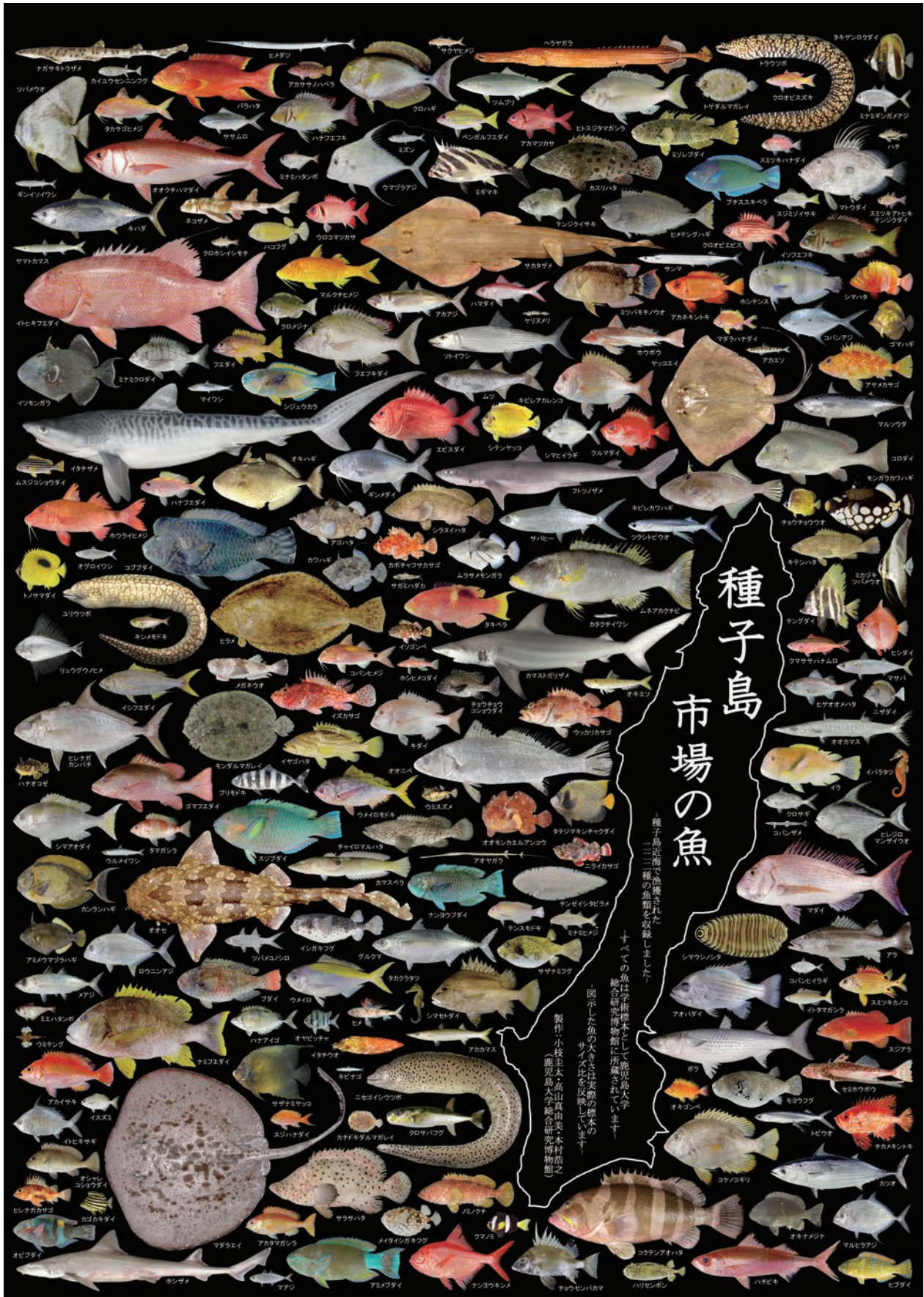
11 2016年度 魚類ポスター



奄美大島 市場の魚100種②

奄美大島近海で漁獲された200種の魚類を2枚のポスターに収録しました。すべての魚は学術標本として鹿児島大学総合研究博物館に所蔵されています。このポスターに図示した魚の大きさは、実際の標本のサイズ比を反映しています(2017年1月)。
 製作・小枝圭太・本村浩之(鹿児島大学総合研究博物館) 協力・前川隆則(株式会社 前川水産)





種子島 市場の魚

「種子島近海で獲れた
一三二種の魚類を収録しました」

すべての魚は学術標本として鹿児島大学
総合研究博物館に所蔵されています。

図示した魚の大きさは実際の標本の
サイズ比を反映しています。

製作：小枝圭太・高山真由美・木村浩之
鹿児島大学総合研究博物館

Market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines



Designed by Hiroki Iwatsubo and Hiroyuki Motomura / Collection and photographs by the Kagoshima University Museum, University of the Philippines Visayas & Research Institute for Humanity and Nature / Collection managed by Ulysses B. Alama and Hiroyuki Motomura

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum
No.16
2016

2018. 03. 30

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan

